
高等教育における
アーティキュレーションに関する調査研究
報告書

高 等 教 育 の あ り 方 研 究 会
高等教育におけるアーティキュレーションに関する調査研究部会

公益財団法人 大学基準協会

2015（平成 27）年 5 月

目 次

まえがき	鈴木 典比古 ……	1
第1章 カリフォルニア州における高等教育機関のアーティキュレーション：コミュニティ・カレッジと四年制大学間における学生の編入・転学について	山 田 礼 子 ……	3
第2章 教員養成課程における大学のアーティキュレーション	小 原 一 仁 ……	21
第3章 英国におけるアーティキュレーションについて	川 嶋 太津夫 ……	49
第4章 海外留学の履修科目と学修経験のアーティキュレーション—日本の大学における質的調査から—	野 崎 与志子 ……	61
あとがき	山 田 礼 子 ……	83
・ 高等教育のあり方研究会名簿 ……		85
・ 高等教育におけるアーティキュレーションに関する調査研究部会名簿 ……		85

ま え が き

近年、高等教育において国際間の連携と協力が著しい進展を見せています。高等教育の国際化は、教育を授ける側の大学が様々な形態で国際化を図っている側面と、教育を受ける側の学生が様々な留学形態などを通じて国際移動を活発化させている側面がありますが、この、教育を授ける大学側と教育を受ける学生側の2つの動きは高等教育国際化の必要条件と十分条件ともいえます。この2つの条件を同時に満たすためには、各国大学間においてプログラムやカリキュラムや諸科目において調整や整合性の確保が必要となります。これをアーティキュレーション (articulation) と呼びますが、アーティキュレーションの必要性の認識は近年特に高まっています。たとえば、国際化に伴う海外分校の設置、通信制大学の国際展開、大規模に展開されるオンライン授業 (MOOCs) の進展など、国境を越えた教育の進展が顕著であり、OECD (経済協力開発機構) においては、質の高い教育を提供する国際的な枠組みを構築することを目的として、各国が取り組むべき事項などを取りまとめたガイドラインを策定しています。また、我が国においても、コンソーシアムの設置や高等教育における国際連携を促進させる「キャンパス・アジア」構想などによって、大学間または中等後教育の各学校種間における適切なアーティキュレーションが求められており、今後ますます学生の学修機会の拡大と学生の流動化の進展によって、その重要性は増していくものと見られています。

こうした高等教育におけるアーティキュレーションを適切に実現するためには、制度枠組みの構築はもちろんのこと、個々の科目設定においても、その一貫性、整合性の確保など、教育の質保証が重要です。また、アーティキュレーションは、期間相互の連携と認定によるチェック機能が働くことを前提とするものであるため、教育の質保証のみならず、教育の質向上という課題にもつながるものです。

しかしながら、我が国の高等教育におけるアーティキュレーションは、制度としての枠組みは構築されつつあるものの、互換性のある科目認定、成績評価法、学修成果の設定などの具体的な内実となると、未だ明確でなく、より理論的また実践的な検討が必要です。

更に、高等教育における視座が教員による授業中心から学生による学修中心へと転換し、学修成果を担保するための取組 (単位の実質化、学修成果の明確化) が各大学にますます求められつつあるなか、こうした理論的、実践的な検討は単にアーティキュレーションそのものに留まらない意義を持っています。

こうしたことから、大学基準協会は、今回、国内外の高等教育における適切なアーティキュレーションにかかる制度設定の在り方および互換性のある教育の在り方を明らかにすることによって、高等教育の質保証と質向上の具体的方策として、有効かつ国際的通用性のある教育とは何

かを探るべく、本調査研究を行いました。

本報告書が、多くの大学において活用され、我が国における大学間のアーティキュレーションへの理解の促進につながることであれば幸いです。

2015 年 5 月

公益財団法人 大学基準協会

高等教育のあり方研究会

高等教育におけるアーティキュレーションに関する調査研究部会

部会長 鈴木 典比古

第1章 カリフォルニア州における高等教育機関のアーティキュレーション： コミュニティ・カレッジと四年制大学間における学生の編入・転学について

山田 礼子

1. はじめに

単位互換を実施する日本の高等教育機関も増加し、短期大学、高専からの四年制大学への編入も年々一般化しつつある。京都コンソーシアムにはより多くの二年制、四年制大学が参加し、相互の単位互換を可能にしている単位互換制度が存在している。今後、学生人口がさらに減少し、二年制短期大学と四年制大学、あるいは四年制大学間での編入が活発化していくと仮定すれば、より広範な地域間、複数大学間における単位互換制度の構築が必要になってくるのではないかと考えられる。また、グローバル化の進展に伴って、海外へ留学する学生も増加しており、そうした学生が今後増加するとすれば、国際的な学生の流動化を視点にいたした制度の構築も不可欠である。

学生の流動化についてはいくつかの視点からアプローチすることが必要となる。例えば、二年制短期大学や高等専門学校から四年制大学への編入といった、現在既に制度として存在し、決して多くはないが一定の学生の需要が見込まれる仕組み及び実施されている四年制大学間での転学の実態を検証することである。そして、様々な理由による中退者や退学者が転学をする場合もありうるがこうしたケースも検証する必要がある。高等専門学校から四年制大学工学部への編入は、長岡科学技術大学や豊橋科学技術大学に代表される一部の国立大学では確立した制度として存在しており、単位の認定等も実質化している。しかし、一方で二年制短期大学と四年制大学、あるいは四年制大学間での編入がさらに活発化していくと仮定すれば、より広範な地域間、複数大学間における単位互換制度の構築が必要になってくるであろう。短期大学からの編入や四年制大学間内での転学に際して、単位の認定、及び教育プログラムとしての接続は、日本では個々の大学の裁量に任されていることもあり、制度として単位累積加算や教育プログラムの接続は進展していない。また、国際間における学生の流動化に際しての仕組みの構築も喫緊の課題となっているなかで、多くの大学が現在科目ナンバリングを整備しつつある。しかし、科目ナンバリングは国内外での学生の流動化に向けての制度というよりは体系的な科目履修という視点で日本では捉えられている。

効果的な単位互換制度を構築していくには、共通科目もしくは共通の教養教育カリキュラムの創造が不可欠ではないだろうか。大学間の編入・転学が活発に実施されているアメリカでは、ミネソタ州やカリフォルニア州において州全体をカバーするような広範な単位互換制度と共通の一般教育カリキュラムが開発・実践されている。共通科目もしくは共通の教養教育カリキュラムの創造に際しては、単位認定に

伴う科目内容や教育成果認定の平準化が、効果的な単位互換制度を構築していくうえで不可欠であると思われる。

本稿で検討するカリフォルニア州の公立高等教育機関では、他州の高等教育機関で導入されている学外学位制度や単位累積加算制度、そして経験を単位化するポートフォリオ評価や試験による単位の認定等はそれほど普及していない。私立の高等教育機関における経験の単位化、試験による単位の認定等に関しては比較的自由に推進されていると推察される一方、後ほど詳述するマスタープランによって公立高等教育機関の機能が定められているカリフォルニア州では、コミュニティ・カレッジあるいは四年制公立高等教育機関内での学籍の移動をベースとするアーティキュレーションと呼ばれる単位互換制度が一般的である。

本稿では、第一に、カリフォルニア州における公立高等教育機関の特質に触れながら、コミュニティ・カレッジと四年年制州立大学間におけるアーティキュレーションと呼称される編入・転学制度を概観する。¹次に、近年コミュニティ・カレッジから四年制州立大学への編入を促進するために開発された I G E T C (Intersegmental General Education Transfer Curriculum) と呼ばれる一般教育共通カリキュラムと学生の編入・転学支援システムとして開発されたコンピュータベース、A S S I S T (Articulation System Stimulating Interinstitutional Student Transfer) について言及し、単位の認定にあたっての質保証を高等教育機関が如何に構築しているかについて事例をもとに考察する。

2. カリフォルニアにおける公立大学システムと学生の編入・転学システム

カリフォルニア州の高等教育政策は、カリフォルニア中等後教育委員会 (California Post-Secondary Education Commission) の管轄となっているが、カリフォルニア州の公立高等教育制度は 1960 年に制定されたカリフォルニア・マスタープランの基本原則を現在でも踏襲している。1987 年、2002 年にマスタープランは改定されているものの基本原則に関してはほとんど変更がなく、州の公立高等教育制度の機能、ミッションはマスタープランによって明文化されている。州の高等教育機関は University of California 群 (以下、「UC」という。) を頂点に、カリフォルニア州立大学群 (以下、「CSU」という。)、コミュニティ・カレッジ群 (以下、「CC」という。) の 3 層構造から成り立ち、果たすべき機能は各々異なっている²。すなわち、UC システムは研究大学として、CSU システムは教育をより中心的役割とする教育大学として、そして CC 群は 18 才以上の州民であれば誰でもがアクセスできるオープンドア・カレッジとして機能するという役割と使命が明確化されている。しかし、コミュニティ・カレッジでトランスファープログラム (以下、「編入プログラム」という。) に在籍し、大学前期課程を修了すれば、私立大学を含めて、CSU 及び UC への専門課程からの編入がマスタープランによって定められている。大学の前期課程を学費が安価なコミュニティ・カレッジで学び、一定の単位と成績を収めることで学費の高い四年制大学に編入をすることは、低所得者家庭出身学生にとっての負担軽減ともなるとい

う利点が存在する。

カリフォルニア州にはマスタープランで定められた上記の3種類の公立高等教育機関以外に、21万人以上が学んでいる数十校に上る四年制・二年制の私立高等教育機関が存在している。カリフォルニア州では、公立高等教育機関への入学選抜政策もマスタープランによって、高校時代の成績により決定されている。例えば、マスタープランによって、公立高等教育機関への入学を望む高校生の場合、成績上位 12.5% GPA3.0 以上はUCへ進学、上位 25% GPA2.0 以上はCSUへ、それ以外はコミュニティ・カレッジへ進学が定められた。現在でもこの入学制度自体は堅持されているが、高校生の上位 12.5%が必ずしも希望するUCへの入学が認められるわけではない。成績上位者、つまり高GPA取得者が多すぎることで、UCへの入学希望者数が増大しているため、アドミSSIONの難易度が上昇しているという理由である。

しかし、原則としてCC、CSU、UC間内での学生の編転入機会をマスタープランが明文化し保証することにより、学生の学籍上での上昇移動も可能にしてきた。これがカリフォルニア州の公立高等教育機関における編入・転学制度である。マスタープランは1960年の成立以来継続的に改正に向けての努力がなされている。次節ではこのマスタープランによって明文化されている州内公立高等教育機関内での編入・転学制度について概観してみることにしたい。

3. アーティキュレーション制度のもとでの新しい大学間共通一般教育の導入の背景

カリフォルニア州の単位互換制度、より正確に言えばアーティキュレーションと呼ばれる編入・転学・制度は1960年のマスタープランによってその骨格が制定され実施されてきたが、1988年のマスタープラン検討委員会の提案に基づき1990年からコミュニティ・カレッジとUC、CSU間で協議がはじめられ、1991年からIGETC(Intersegmental General Education Transfer Curriculum)と呼ばれるコミュニティ・カレッジから四年制州立大学へのアーティキュレーション過程の円滑化を目指しての共通一般教育科目システムが導入されるようになった。

上記のような新制度が導入された背景には、1960年のマスタープラン制定以来堅持されてきたコミュニティ・カレッジからカリフォルニア大学、州立カリフォルニア大学への編入率が近年低下してきたという事実がある。例えば、1994～95年度以来、コミュニティ・カレッジからカリフォルニア大学、州立カリフォルニア大学システムへの編入学生は3,500人、率にして6%の低下率を示してきた。こうした低下現象に影響を及ぼした第一の要因としては、カリフォルニア大学、州立カリフォルニア大学システムにおける全体的により厳しく設定された入学政策が挙げられる。州立カリフォルニア大学システムは、1年生、2年生の下級学年に相当するコミュニティ・カレッジからの優れた編入生を従来比較的柔軟に受け入れてきたが、近年上級学年での編入にシフトしたこと、カリフォルニア大学システムでは1年生全体に対する入学基準が上昇した結果、より厳しくなった入学基準がコミュニティ・カレッジからの編

入希望学生にも適用されたことが具体例として挙げられる。

さらに長期間継続した州の経済不況とそれに続く高等教育への予算の削減によって、アーティキュレーション担当部署での専門職と予算の削減が見られたこと、州民としての資格のある学生に対する学費の値上げとグラントベースから学生ローンへの移行という奨学金政策の変更もコミュニティ・カレッジからの編入学生が減少する重要な要因となったとされている。

州政府は、こうした編入率低下が、マスタープラン以来堅持してきた公立高等教育への機会の保証という目標を阻害するという危機感のもとでの新システムの導入でもあった。

4. 大学間共通一般教育（IGETC）とASSISTシステム

共通一般教育科目システムと言っても、公立高等教育機関内での共通一般教育カリキュラムが開発・導入されているというわけではなく、むしろIGETCの基本は、IGETCとして認定されている一般教育科目をコミュニティ・カレッジで履修した編入希望学生が四年制大学へ編入した際に、そのIGETC科目の単位互換が保証されるシステムと考えたほうが妥当である。言い換えれば、公立大学間における一般教育の単位互換制度がIGETCである。履修した科目単位が公立大学間、あるいはコミュニティ・カレッジから四年制大学へ編入を希望する学生にとって互換されるかどうかを確認するオンライン上でのデータベースであるASSISTがIGETCを集中管理するシステムとして存在している。

IGETCはコミュニティ・カレッジの編入プログラムに在籍しながら、四年制大学への編入を希望する学生で専攻が未決定の学生にとって便利な制度であり、60単位が原則として互換可能となっている。IGETC制度が導入される以前には、コミュニティ・カレッジから州立大学への編入学生が編入後にコミュニティ・カレッジで履修した一般教育科目の単位が認定されないという事態がしばしば起こっていたが、IGETC導入によりこうしたトラブルは大幅に減少したといわれている。IGETC科目の更新は毎年コミュニティ・カレッジが責任を持って行う。

UC、CSUいずれのキャンパスにおいても各学科、専攻コースが必修としている下級学年における一般教育は異なっている。例えば、UCでは専攻が主導権をもって履修すべきあるいは単位の互換を可能とする一般教育科目を設定している。したがって、IGETC科目60単位を履修していたとしても編入はいくつかのキャンパスでは保証されない。つまり、Major（以下専攻）が求める必修科目の方がより重要という位置づけである（Major ベース）。また、また、AA（Associate Arts）学位を持っていない学生は編入ができないことからAAの取得が基本になっている。一方、すべてのCSUではIGETCを履修したコミュニティ・カレッジの学生の編入については、「プライオリティ編入」という名称で保証されている。

編入先が確定している編入希望学生は、本来は編入先の専攻が要件としている一般教育科目をカウンセラーと相談のうえ履修する必要がある一方で、以下のような場合にはIGETCは有効な制度である

と評価できよう³。

I G E T Cに相当する一般教育科目は、カリフォルニア大学、州立カリフォルニア大学及びコミュニティ・カレッジの大学評議会によって承認される。I G E T Cは各大学間でのアーティキュレーションというよりはむしろ四年制高等教育機関全体でのアーティキュレーションに際しての一般教育科目の認定に際しての共通理解の確認として意義があると同時に、四年制大学への編入を希望していながら学科・専攻コースが未確定であるコミュニティ・カレッジ学生にとって利益となるシステムとして評価されている。すなわち、I G E T Cは編入する際に最低限必須であるとされている一般教育科目を定めている制度であるため、専攻が未決定の学生にとっても履修した一般教育科目の単位認定が保証されるシステムであるからである。しかし、必修科目等の要件が厳しく定められている物理学、工学、自然科学分野においてはI G E T C科目の単位認定が認められない場合もあるため、この三分野への編入を希望する学生はカウンセラーとの綿密な編入計画の実施が不可欠となっている。

I G E T C科目は必ずしも同じコミュニティ・カレッジのキャンパスで履修する必要はなく、カリフォルニアにあるいずれのコミュニティ・カレッジで履修することが可能となっている。そのため、いずれのコミュニティ・カレッジでも履修科目が共通してわかるように科目に科目内容も掲載されているC I Dナンバーがふられ、コミュニティ・カレッジ間での一般教育科目（I G E T C）の内容面での調整と質保証等が担保されている。

また、編入するまでに共通科目を履修し終えていない学生の場合には、編入後にカリフォルニア大学もしくは州立カリフォルニア大学が要求する一般教育科目を履修しなければならないとなっているが、その場合においても編入先の大学で履修する必要はなく、I G E T C科目として認められている科目を提供しているいずれの公立大学のキャンパスで履修しても良いとされている。この点にこそ共通一般教育カリキュラムの特徴があるといえよう。

州内での転入は60単位が転編入単位として認定されるが、他の州への単位互換も、例えば、アリゾナ州では50単位が転編入単位として認定される等州によっては保証されている場合もある。

一般教育科目の単位互換を支援するデータベースであるA S S I S Tシステムは州政府の資金によって構築されている。したがって、公立大学であるUC、CSU、コミュニティ・カレッジがデータを提供し、所属学生が利用することが基本である。後述するように私立大学もコミュニティ・カレッジ学生の編入に積極的にかかわっていることから、私立大学もA S S I S Tを参照データベースとして利用するが、データは提供していない。25年前にA S S I S Tが構築された当初はUCアーバインにオフィスがあったが、現在は独立してアーバインにオフィスがある。A S S I S Tについての運営の責任は、C C C O (California Community College Chancellor' s Office)、C S U C O (California State University Chancellor' s Office)、U C O P (University of California、Office of President) が担っている。

【資料1】 ASSIST 組織図

ASSIST: Next Generation Documents

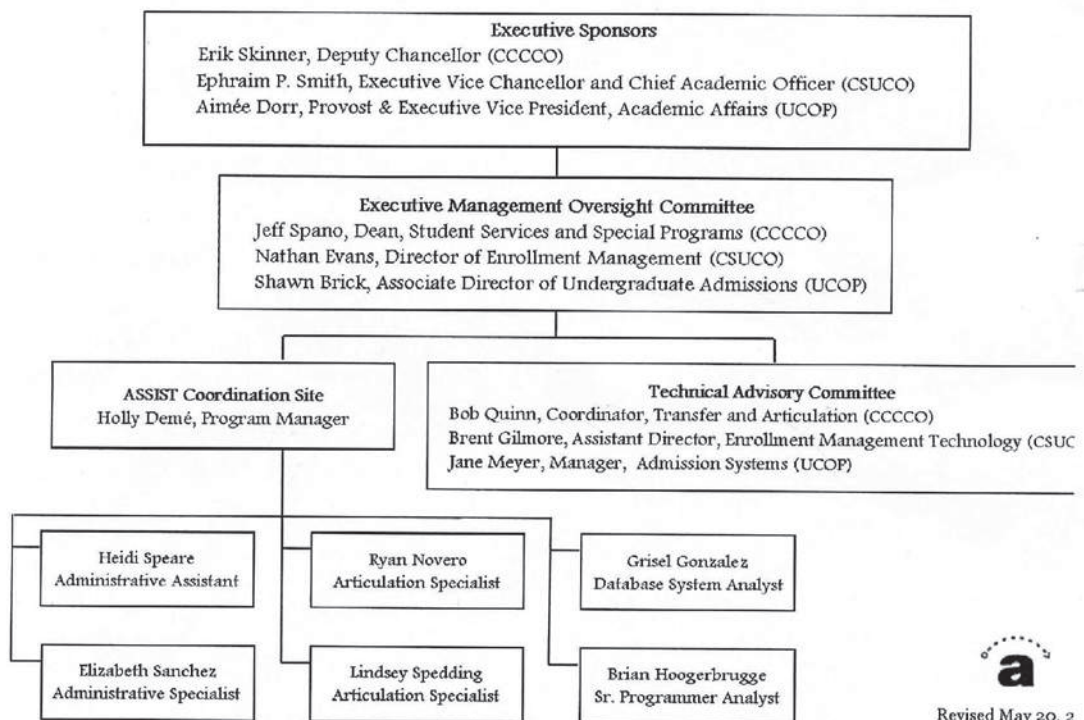
7/30/14 11:40 AM



ASSIST

(Articulation System Stimulating Interinstitutional Student Transfer)

ORGANIZATIONAL CHART



Revised May 20, 2

<http://info.assist.org/orgchart.html>

<関連参照サイト情報>

◆UC IGETC:

<http://admission.universityofcalifornia.edu/counselors/transfer/advising/igetc/>

◆CSU

https://secure.csumentor.edu/planning/transfer/ge_igetc.asp

◆IGETCの概要 CID

http://www.calstate.edu/app/documents/igetc_notes1.pdf

◆ASSIST <http://www.assist.org/web-assist/help/help-igetc.html>

◆組織図 <http://info.assist.org/orgchart.html>

◆CID <http://www.c-id.net/>

5. コミュニティ・カレッジにおける編入の変化

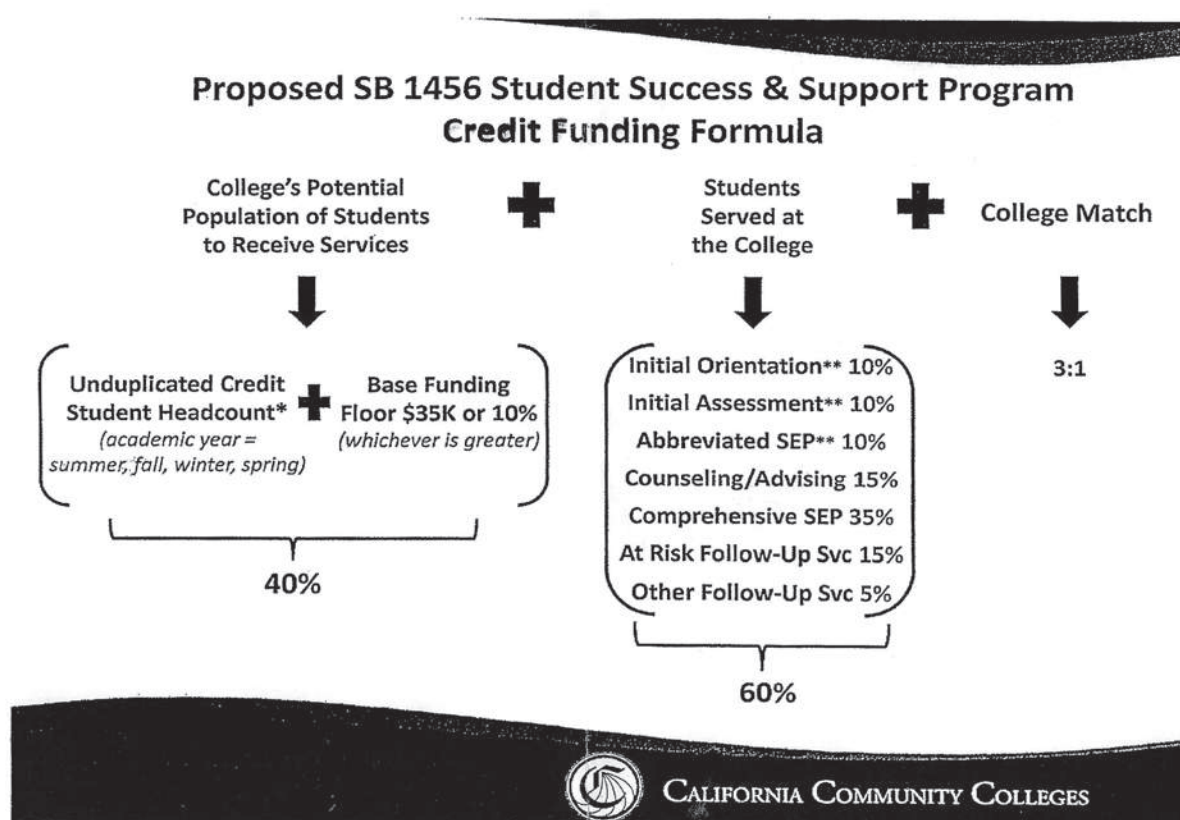
先述したように IGETC はカリフォルニア高等教育マスタープランの下で、公立高等教育機関内、特にコミュニティ・カレッジから四年制大学への編入を促進・保証するシステムとして構築された経緯がある。一方で、最近の高等教育政策の動向がコミュニティ・カレッジに在籍しながら、四年制大学への編入を目指す学生にとって少なくない影響を及ぼしている⁴。2012年にカリフォルニア州の新 S B 1456 Student Success Act（資料2を参照）が制定され、すべてのコミュニティ・カレッジの学生に対して入学後に、オリエンテーション、アセスメント、カウンセリング、アドバイジング、及び教育プランの設定に関するサービスを提供することが義務付けられた。そのため、アセスメントテスト（数学と英語）についても、編入プログラムの学生のみならず、職業資格取得希望学生、趣味やレジャープログラム登録学生も受けなければならない、また教育プランの提出も求められるようになった。編入プログラム学生にとっては、早期から将来のメジャーを決めることがより奨励されるようになっている。IGETC は編入を希望しながら、まだ専攻が未決定の学生にとって最も効果的な制度であったが、早期からの専攻を決定することが求められるようになっているため、例えば、UCのように専攻によって履修すべき科目がしっかりと定められている機関への編入を希望する場合には、IGETCでの60単位の履修はそれほど意味を持たなくなってくる。換言すれば、編入までのプロセスを早期化することでコストを削減することがこの法案の背後にある要因でもあるため、編入希望学生も早期の決定が求められるようになったといえよう。

IGETCとは直接関係するとはいえないが、コミュニティ・カレッジの一科目履修費用は47ドルと設定されている。したがって、公立四年制大学と比較しても学費としても安価であることから、コミュニティ・カレッジに学士前期課程を在籍し、学士後期課程を四年制大学で学ぼうとする学生が多い。しかし、コミュニティ・カレッジ側にとっては、安価に設定されている学費だけでは財源をカバーできな

いことも事実である。近年州政府からの補助金が減少しているために、自主財源の確保がより切実になっている。このような背景において、独自で財源を確保するために、卒業生からの寄付、グラントへの応募、BAやBS学位の提供まで行うコミュニティ・カレッジが出現しているのも新しい動向である。例えば、従来は二年制のコミュニティ・カレッジのみであった College of the Canyons はAA授与に加えて、BAやBS学位の提供まで行っている⁵。

【資料2】SB 1456 による補助金額の根拠

ヤング氏提供資料



6. UCL Aにおける編入受入れ政策と実際

本節では、UCL Aにおける編入制度についての実際を訪問調査結果から紹介する⁶。UCL A (University of California Los Angeles)は、UCシステムの中の一校であり、UCバークレー 校とともにUCシステムの基幹大学として位置づけられている。2013 年秋現在、学部生、大学院生の総数は 42、163 名であり、学部生は 28、674 名となっている。公立大学であることからカリフォルニア州民に対する学費は 1 年間で 12,692 ドルとなっている。<http://www.aim.ucla.edu/profiles/main.pdf>

学士課程については、109 の学科があり、125 分野におよぶ専攻(Major)がある。多くの学部生が所属するのは、人文学、社会科学、自然科学、生命科学の 4 分野を包摂する College of Letters & Science であるが、それ以外には工学部や大学院が主であるが少数の学部生を受け入れている部門もある。

<http://www.ucla.edu/academics/undergraduate-education>

編入学生の受け入れの評価は、College of Letters & Science についてはアドミッション・オフィスが行い、Articulation officer と Admissions Evaluation 担当者がこの業務にあたっている。UCL A には年間約 2 万人のコミュニティ・カレッジからの編入希望学生が書類を提出している。編入学生を受け入れる際には、第一に、科目についてはコミュニティ・カレッジとUCL Aとの間にトランスファーに関する合意書(Articulation Agreement)が存在していることが前提であり、編入希望学生がAA学位を取得していることも前提条件となる。ただし、UCL Aでは、IGETC科目を履修していることは必ずしも前提条件とはならない。Articulation Agreementは毎年更新されるため、IGETC科目の変更にも注意を払う必要があるとのことである。

むしろ、UCL Aでは専攻(Major)ベースで編入が決定されるために、専攻が設定している科目をコミュニティ・カレッジで履修していることがより重要となる。また、アドミッション・オフィスからは編入希望学生の推薦はできるが、最終決定権は専攻のファカルティにある。編入学生に限らず専攻の教育の質保証に際しては、専攻の教員が深くかかわっていると考えられる。事実、分野によっては、前期の一般教育の履修に際しても、専攻分野が指定していることも多く、自由度があまりない場合も決して少なくない。全体の学科別の編入率がネット上に公表されているが、工学部や生命医科学部、建築学科等では1%から5%程度の編入率の場合も多く、これら人気がある学科・専攻への編入においては、競争率が高いことが読み取れる。一方、30%前後の編入率となっている学科・専攻も少数ながら存在しているが、そうした学科・専攻への編入希望学生数も決して多くはなく、大学卒業後の就職状況の良い学科・専攻への人気が高いことが編入希望学生の多寡に深くかかわっている。

工学部や生命医科学部、建築学科等STEM(Science、Technology、Engineering、Mathematics)分野では、専攻指定の科目履修が前提条件となっている場合が多く、こうした前提条件をクリアすることが先決となることから、IGETCはそれほど重要な要素ではないという見解であった。UCシステムに属している他の大学においても、大学によって編入基準が異なっている。そのため、IGETCは

コミュニティ・カレッジから四年制公立大学への編入を促進するシステムであるという位置づけと意義は不変であるものの、必ずしも機能が高く評価されているという訳でないといえよう。

資料 Major によって異なる必修科目

Alexander 氏提供

【資料3-1】

8/1/2014	www.assist.org	Page 1
Articulation Agreement by Major		
Effective during the 13-14 Academic Year		
To: UCLA	From: Santa Monica College	
	Quarter	Semester
=====		
====Biology/B.S.====		
ID#:	97	Term for Course Info: F13
Listed below are the lower division preparation courses for the major. All courses must be taken for a letter grade. THIS MAJOR IS HIGHLY SELECTIVE; a significant number of preparatory courses should be completed prior to transfer. At minimum, you should complete one year of biology with laboratory, one year of general chemistry with laboratory, one year of calculus and one semester of organic chemistry with laboratory. Completion of a second semester of organic chemistry or one year of calculus-based physics is strongly recommended. For more information regarding this major and UCLA's transfer selection process, visit www.eeb.ucla.edu/undergraduate.php and www.admissions.ucla.edu .		
NOTE : If your college does not offer a two semester sequence in calculus-based physics, it is recommended that you complete Physics 6ABC at UCLA after you transfer.		
PLEASE NOTE: The community college courses listed below have been approved to satisfy the preparation requirements for this major at UCLA, but they <u>may</u> not be exact equivalents of the UCLA courses listed.		

ID#:	7	Term for Course Info: F13
LIFESCI 1	Evolution, Ecology, and Biodiversity	(5) BIOL 21 & Cell Biology and Evolution (4) BIOL 23 Organismal and Environmental Biology (5)

ID#:	8	Term for Course Info: F13
LIFESCI 2	Cells, Tissues, and Organs	(4) BIOL 21 & Cell Biology and Evolution (4) BIOL 23 Organismal and Environmental Biology (5)

ID#:	9	Term for Course Info: F13
LIFESCI 3	Introduction to Molecular Biology	(4) BIOL 21 & Cell Biology and Evolution (4) BIOL 22 Genetics and Molecular Biology (4)

ID#:	487	Term for Course Info: F13
LIFESCI 23L	Introduction to Laboratory and Scientific Methodology	(2) BIOL 21 & Cell Biology and Evolution (4) BIOL 22 Genetics and Molecular Biology (4)

【資料3-2】

8/1/2014

www.assist.org

Page 2

To: UCLA, From: Santa Monica College, 13-14

=====

Biology/B.S. (continued)

ID#: 10 Term for Course Info: F13

LIFESCI 4	Genetics	(5)	BIOL 22	Genetics and Molecular Biology	(4)
-----------	----------	-----	---------	--------------------------------	-----

ID#: 4 Term for Course Info: F13

CHEM 20A	&	Chemical Structure	(4)	CHEM 11	&	General Chemistry I	(5)
CHEM 20B	&	Chemical Energetics and Change	(4)	CHEM 12		General Chemistry II	(5)
CHEM 20L	&	General Chemistry Laboratory	(3)				
CHEM 30AL		General Chemistry Laboratory II	(4)				

ID#: 3 Term for Course Info: F13

MATH 3A		Calculus for Life Sciences Students	(4)	No course articulated
---------	--	-------------------------------------	-----	-----------------------

AND

AND

ID#: 113 Term for Course Info: F13

MATH 3B		Calculus for Life Sciences Students	(4)	No course articulated
---------	--	-------------------------------------	-----	-----------------------

AND

AND

ID#: 114 Term for Course Info: F13

MATH 3C		Probability for Life Sciences Students	(4)	No course articulated
---------	--	--	-----	-----------------------

OR

OR

ID#: 23 Term for Course Info: F13

MATH 31A		Differential and Integral Calculus	(4)	MATH 7	Calculus 1	(5)
----------	--	------------------------------------	-----	--------	------------	-----

AND

AND

ID#: 519 Term for Course Info: F13

MATH 31B		Integration and Infinite Series	(4)	MATH 8	Calculus 2	(5)
----------	--	---------------------------------	-----	--------	------------	-----

AND

AND

ID#: 19 Term for Course Info: F13

MATH 32A		Calculus of Several Variables	(4)	MATH 11	Multivariable Calculus	(5)
----------	--	-------------------------------	-----	---------	------------------------	-----

ID#: 366 Term for Course Info: F13

STATS 13		Introduction to Statistical Methods for Life and Health Sciences	(5)	MATH 54	Elementary Statistics	(4)
----------	--	--	-----	---------	-----------------------	-----

【資料3-3】

8/1/2014

www.assist.org

Page 3

To: UCLA, From: Santa Monica College, 13-14

Biology/B.S. (continued)

ID#: 24 Term for Course Info: F13

PHYSICS 6A &	Physics for Life Sciences Majors: Mechanics	(5)	PHYSICS 8 &	General Physics with Calculus	(4)
PHYSICS 6B &	Physics for Life Sciences Majors: Waves, Electricity, and Magnetism	(5)	PHYSICS 9	General Physics with Calculus	(4)
PHYSICS 6C	Physics for Life Sciences Majors: Light, Fluids, Thermodynamics, Modern Physics	(5)			
OR			OR		

ID#: 25 Term for Course Info: F13

PHYSICS 1A &	Physics for Scientists and Engineers: Mechanics	(5)	PHYSICS 21 &	Mechanics with Lab	(5)
PHYSICS 1B &	Physics for Scientists and Engineers: Oscillations, Waves, Electric and Magnetic Fields	(5)	PHYSICS 22 &	Electricity and Magnetism with Lab	(5)
PHYSICS 1C &	Physics for Scientists and Engineers: Electrodynamics, Optics, and Special Relativity	(5)	PHYSICS 23	Waves, Optics, Thermodynamics with Lab	(5)
PHYSICS 4AL &	Physics Laboratory for Scientists and Engineers: Mechanics	(2)			
PHYSICS 4BL	Physics Laboratory for Scientists and Engineers: Electricity and Magnetism	(2)			

ID#: 26 Term for Course Info: F13

CHEM 30A &	Organic Chemistry I: Structure and Reactivity	(4)	CHEM 21 &	Organic Chemistry I	(5)
CHEM 30B &	Organic Chemistry II: Reactivity, Synthesis, and Spectroscopy	(4)	CHEM 22	Organic Chemistry II	(4)
CHEM 30BL	Organic Chemistry Laboratory I	(3)			

ID#: 444 Term for Course Info: F13

Listed below are additional recommended courses for this major:

【資料3－4】

8/1/2014

www.assist.org

Page 4

To: UCLA, From: Santa Monica College, 13-14

=====

Biology/B.S. (continued)

ID#: 106 Term for Course Info: F13

#	CHEM 153A	&	Biochemistry:	(4)	CHEM 31	Biochemistry I	(5)
#			Introduction to				
			Structure, Enzymes,				
			and Metabolism				
	CHEM 153L		Biochemical Methods I	(4)			

END OF MAJOR

This upper division requirement for the major may be satisfied by the lower division community college Biochemistry course(s) listed.

<関連参照サイト情報>

◆2013 年度編入学生の専攻別の合格率

http://www.admissions.ucla.edu/prospect/Adm_tr/Tr_Prof13.htm

◆Facts & Figures <http://www.aim.ucla.edu/profiles/main.pdf>

◆Undergraduates <http://www.ucla.edu/academics/undergraduate-education>

7. 私立大学における編入受入れ方針と実際：U S C (南カリフォルニア大学)の事例

カリフォルニア州では高等教育マスタープランによって州内の公立大学機関における編入・転学は保証されている。一方、私立大学はマスタープランによって規定されているわけではないが、独自の基準で編入・転学にかかわっている。本節では、ロサンゼルスにある私立南カリフォルニア大学を事例として、編・転学について見てみる。南カリフォルニア大学 (University of Southern California 以下「U S C」という。) は2014-15年度現在で、学部生 19,000 人、大学院及びプロフェッショナル・スクール学生 23000 人、専任教員数 3,915 人という大規模私立大学である。同年度の学費は、寮費等を含まないで 48,347 ドルに達している。学士課程教育は大多数の学生が所属する College of Letters & Science とプロフェッショナル・スクールや大学院として存在しながら、学部生を受け入れている複数のスクールが担っている。<http://academics.usc.edu/>

私立大学であることからU S CはI G E T Cには参加していない。しかし、編入学生の受け入れには積極的であり、個々のコミュニティ・カレッジやその他の私立大学と独自に、Articulation Agreement を結んでいる。Articulation Agreement は毎年更新し、この合意書の中にある科目の単位はすべて編入単位として単位互換を保証している。編入希望学生は、Transfer Planning Guide を通じて編入単位として認められる科目及び専攻で必修とされている科目を確認する。A S S I S Tについては、各コミュニティ・カレッジとU S Cとの間でArticulation Agreement によって認定されている科目の単位が編入単位として認定可能かどうかの確認のために利用している。

U S CはU C L Aの編入学生を受け入れる際の前提条件となっているA A学位の取得を条件として課していないことから、1年次からでも転入することも可能となっている。また、私立大学間においても転入は可能である。実際に、他の私立大学に入学したものの様々な理由でその大学からU S Cに転学してくる学生も決して少なくないとのことである⁷。同じロサンゼルスに位置し、規模も類似している公立大学であるU C L AとU S Cの間には転・編入学を巡る基準や姿勢にはかなりの差異が見受けられる。

<関連参照サイト情報>

◆Facts & Figures <http://academics.usc.edu/>

◆Academics <http://academics.usc.edu/>

◆USC Articulation website www.usc.edu/articulation

◆Articulation Agreements <https://camel2.usc.edu/articagmt/artic.aspx>

◆Transfer Planning Guide <https://camel2.usc.edu/TPG/default.aspx>

8. おわりに カリフォルニア州におけるアーティキュレーションと質保証の関係について

カリフォルニア州の高等教育マスタープランに基づいて公立高等教育機関であるUC、CSU、CC間での編入が決められている。その結果として科目間のArticulation Agreementが定められ存在している。Articulation Agreementには科目の内容、評価、成果等の詳細な情報が掲載されており、Agreementという性格上、科目の内容、評価、成果もコミュニティ・カレッジ側において保証されることにつながっていると四年制大学側は評価している。入学段階で入学試験等の偏差値により入学者の学力レベルが異なっていることを前提とすると学力の差による質保証についてはどうするのかという議論が日本では必ず浮上するのだが、今回の調査を通じてインタビューに答えてくれた複数の関係者は、Articulation Agreementにもとづいて認定された科目をクリアして、一定の成績を収めた転編入の資格がある学生の質は保証されていると答えている。また、一定の編入枠がUCとコミュニティ・カレッジ、CSUとコミュニティ・カレッジ間に設けられているが、編入を希望するコミュニティ・カレッジ学生数は多く、かつUCへの編入が認められるには、厳しい競争を経験し、優れた成績を収めなければならない。それゆえ、編入学生の編入後の学習に関しては問題がないという見方であった。実際に、過去のデータを検証しつつ、Articulation Agreementも毎年見直されており、もし問題があると思われる科目については更新をしないということもあるとのことである。こうした一連のプロセスを通じて編入学に関する質の保証が行われている。

UCLAやUCバークレーは最も編入が難しい四年制大学であることから、コミュニティ・カレッジの編入プログラムに在籍している学生の多くは他のUCやCSUに実際には編入するケースが多いが、マスタープランによって決められているアーティキュレーション制度を堅持するためにも、いずれかの四年制大学への編入が結果として可能になっているということである。

一方、私立大学はUSCの事例が示しているように、マスタープランに基づいてのアーティキュレーション制度に参加はしていない。しかし、自由に転編入の制度を整備し、積極的に転編入学生を受け入れていることがUSCの担当者とのインタビューで明らかになった。事実、UCLAに代表される公立四年制大学とコミュニティ・カレッジ間での編入は、編入を希望する学生がAAを保持していることが条件となる等、一定の基準が設けられている。しかし、USCではコミュニティ・カレッジ及び他の私立大学の1年次からの転編入を認めている等、規制緩和型の自由競争にもとづく学生確保という特徴が私立大学の場合であると思われる。

さて、こうしたカリフォルニア州におけるアーティキュレーション制度からの日本への示唆は何だろうか。短期大学と四年制大学間、あるいは四年制大学間でのアーティキュレーション制度をカリフォルニア州のように整備することが可能かという視点から考察してみると、設置形態の問題及び提供する学士課程プログラムの問題をクリアすることが不可欠となる。つまり、カリフォルニア州では、公立高等教育機関間でアーティキュレーション制度が法律によって保証されている。この点から見ると、日本の国立高等専門学校と国立大学法人間における編入がこの制度に近いものとして存在している。また、コミュニティ・カレッジには四年制大学への編入プログラムが存在しこのコースでは前期課程の一般教育科目が提供され、IGETCとして認定されている科目は、基本的に四年制大学においても内容はほぼ同一内容あるいは同様の水準で提供されるように内容が精査され、教えるファカルティも水準を保ちながら教えるように Articulation Agreement によって、質の保証がなされている。それゆえ、ナンバリングが異なる大学間でも機能することが可能となっている。

一方、日本においては残念ながら、現時点では短期大学が提供するプログラムが大学の前期課程である一般教育科目から主に構築されているわけではなく、むしろ資格にもとづく独自の教育課程となっている。むしろ、USCの事例に示されている私立大学における転学制度が日本の現状に近いといえるだろう。しかし、その場合でも、何らかの形で単位の互換を質の保証を行いながら、一定単位を互換できるような制度があれば円滑な転編入へとつながるのではないかと考えられる。ナンバリングは本来大学内での科目の体系的な履修を促進する機能を持つだけでなく、大学間の単位の互換を可能にするような機能も伴っているはずである。そのように機能するようにナンバリングを進捗させることで、学生の国内での高等教育機関、あるいは国境を越えての大学間における学生の移動へとつながるのではないだろうか。

<訪問先・インタビューリスト>

7 月 28 日	15:00～17:00	John McNeil Professor Emeritus、UCLA
7 月 29 日	10:00～11:00	Gary Rhodes Ph.D. Director、Center for Global Education、UCLA
	11:30～12:30	Rosalind Latiner Raby、Ph.D. Director、California Colleges For International Education
	15:00～15:45	John N. Hawkins、Professor Emeritus、SSCE、UCLA Skype Conference
7 月 30 日	10:30～12:30	Gary Rhodes Ph.D. Director、Center for Global Education UCLA Shawn Brick、Associate Director of Undergraduate Admissions、University of California、Office of the President Holly Deme、ASSIST Program Manager
	13:00～13:45	Conny Cruz、Transfer Center、College of the Canyons
	14:00～15:00	Carlos Torres、Professor、SSCE、UCLA
7 月 31 日	9:00～11:00	Helen P. Young、Director of University Transfer、Center、West LA College Marcella、Hernandez、Counselor、West LA College
	13:00～14:30	Shelby L. King、Articulation Officer、Academic Records and Registrar、University of Southern California
	16:00～17:00	Marijana Benesh Ph.D.
8 月 1 日	13:00～15:00	Anna Kim、Assistant Director、Admissions Evaluation、UCLA Kim Alexander、Senior Assistant Director、Articulation Officer、UCLA

¹ 本章ではカリフォルニア州高等教育機関で実施されているアーティキュレーションを単位移動・互換制度として扱うことにする。

² California Postsecondary Education Commission、(1998)を参照。

³ IGETCの科目を認証するプロセスについては山田の2001年の論文「アメリカの高等教育における単位互換と単位の認定：カリフォルニア州のアーティキュレーションシステム」『学位研究』第14

号 pp. 5～28. に詳細が掲載されている。

⁴ West LA College の Director of University Transfer、 Center、 Helen P. Young 氏とのインタビューを参照している。

⁵ Ph.D. Director、 California Colleges、 For International Education である Rosalind Latiner Raby 氏 と College of the Canyons、 Transfer Center、 Conny Cruz 氏とのインタビューを参照している。

⁶ U C L A の Assistant Director、 Admissions Evaluation である Anna Kim 氏と Senior Assistant Director、 Articulation Officer である Kim Alexander 氏とのインタビューを参照している。

⁷ U S C の Articulation Officer、 Academic Records and Registrar である Shelby L. King 氏とのインタビューを参照している。

第2章 教員養成課程における大学アーティキュレーション

小原 一仁

1. はじめに

現在でも、短期大学（以下、「短大」という。）から大学へと編入学をしてくる学生はいる。資格等の取得を特別希望していない場合、編入先の大学が求める卒業に必要な単位を取得さえすれば、大きな問題もなく当該大学の卒業資格をも取得することができる。もちろん、編入元である短大で取得された単位のうち、どれだけの単位が編入先の大学の単位として認定されるかにもよるものの、多くの場合は、比較的柔軟に単位認定が行なわれているものと考えられる。

しかし、短大から大学への移行のなかでも、資格や免許が絡んでくる場合、単純に単位の認定だけで済む話とはならない。本章で取り扱う教育職員免許状（以下、「教員免許」という。）を取得することを目的とする教員養成課程についても例外ではない。なお、教員養成を実施している大学には、例年、教員免許の取得を希望して短大から編入してくる学生がいるものの、短大でまったく教職課程に当たる科目を履修していない場合、編入先の大学で取得できる教員免許が限定されてしまうという現実もある。

今後、教員免許の在り方が大きく変更されることも予想されている¹ことから、小中一貫や中高一貫教育に対応できるように隣接する学校種の教員免許を併有することが、教員採用選考において有利に働くことも考えられる。そのような趨勢のなかで、例えば、短大での在籍期間を含めて合計4年間で学士号の取得と複数の教員免許の取得が、時間的に難しいという状況に陥る可能性は否定できない。また、仮に4年間で両方が実現できるとしても、編入後履修する科目はすべて教員免許及び大学卒業要件とされる必修科目の履修だけに終始してしまうことにもなりかねない。

本来、教員免許を取得するにあたり、必修科目だけを履修するのではなく、必修以外の科目も履修することで、当該学校における教職に関しての知識を更に深化することも、学校現場からは強く求められている。そうした現場のニーズにも教員養成を行なう大学は応えることが期待されている以上、編入してきた学生に対しても同様の知識の深化を求めることは決して不自然なものではなかろう。

日本における教員養成は、そういった短大から大学への移行をも想定した枠組みでは運用されてこなかった。しかし、大学アーティキュレーションを今後の日本の高等教育が検討すべき一つの課題とするのであれば、教員養成における大学アーティキュレーションについても思考する意義はあろう。そこで、次節では、日本における教員免許状および教員養成制度について概説する。その際には、日

本で教員免許を取得することについても併せて触れておきたい。第3節では、米国における大学アーティキュレーションの概観を、先行研究を基に紹介する。そして、第4節では、米国における教員養成について、その概要を紹介する。ただし、米国における教員養成は、その実非常に多様化されており、更にその多様化の背景には、州によって教員免許の扱いが異なるという実態があるため、非常に表層的なことだけに言及する点は、留意されたい。第5節では、教員養成における大学アーティキュレーションについてまとめられた文献を紹介し、第6節では、米国において現在運用されている教員養成課程での大学アーティキュレーションについていくつかの事例を紹介する。最後に、米国の大学で展開されている教員養成課程での大学アーティキュレーションから、どういったことが示唆されるか、検証したい。

2. 日本における教員免許状制度および教員養成制度について

日本における教員免許制度の特徴として、相当免許主義がある。これは、教育職員免許法により、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教員は、原則として、学校の種類ごとの教員免許（中学校または高等学校の教員は学校の種類および教科ごとの教員免許）を有していることが必要とされている（第2条、第3条）。そして、現在教員免許状には3種類があり、申請により、都道府県教育委員会から授与されるという形態をとっている。授与を受けるためには、下記のどちらかが必要となる（教育職員免許法第4条、第5条）。

- ① 所有資格（学位と教職課程等での単位習得、または教員資格認定試験（幼稚園、小学校、特別支援学校自立活動のみ実施）の合格）を得る
 - ② 都道府県教育委員会が行う教育職員検定（人物・学力・実務・身体面）を経る
- なお、具体的な授与基準等の細則は、都道府県ごとに定められている。
- 免許状の種類、有効期間、有効地域範囲、概要については、表1を参照されたい。

表 1. 教員免許状について

免許状 の種類	有効 期間	有効地域 範囲	概 要
普通免許状 (専修免許状) (一種免許状) (二種免許状)	10 年	全国の学校	教諭、養護教諭、栄養教諭の免許状である。所要資格を得て必要な書類を添えて新制を行うことにより授与される。専修、一種、二種（高等学校は専修、一種）の区分がある。すでに教員免許状を有する場合は、一定の教員経験を評価し、通常より少ない単位数の修得により、上位区分、隣接学校種、同校種他教科の免許状の授与を受けることができる。
特別免許状	10 年	授与を受けた 都道府県内の 学校	教諭の免許状である。社会的経験を有する者に、教育職員検定を経て授与される。授与を受けるには、任命または雇用しようとする者の推薦が必要であり、教科に関する専門的な知識経験または技能、社会的信望、教員の職務に必要な熱意と識見を有することが求められる。幼稚園教諭の免許状はない。小学校教諭の免許状は教科ごとに授与されるが、特別活動等教科外活動を担任することも可能である。
臨時免許状	3 年	授与を受けた 都道府県内の 学校	助教諭、養護助教諭の免許状である。普通免許状を有する者を採用することができない場合に限り、教育職員検定を経て授与される。

教員免許状の授与を受けるための教員養成は、大学等で行われており、これが、日本では免許状を取得するもっとも一般的な方法である。具体的には、大学等において学士の学位等の基礎資格を得るとともに、文部科学大臣が認定した課程において所定の教科および教職に関する科目の単位を修得することが求められる。教員免許状取得に必要な科目の単位数（大学での養成による場合）については、表2を参照されたい。

表2. 教員免許状取得に必要な科目の単位数

免許状の種類	所要資格	基礎資格	最低修得単位数					
			教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	特殊教育に関する科目	教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定められる科目	合計
小学校教諭	専修免許状	修士	8	41	34		8	91
	一種免許状	学士	8	41	10		8	67
	二種免許状	短期大学士	4	31	2		8	45
中学校教諭	専修免許状	修士	20	31	32		8	91
	一種免許状	学士	20	31	8		8	67
	二種免許状	短期大学士	10	21	4		8	43
高等学校教諭	専修免許状	修士	20	23	40		8	91
	一種免許状	学士	20	23	16		8	67
特別支援学校教諭	専修免許状	修士および小学校・中学校・高等学校・幼稚園の教諭の免許				47		47
	一種免許状	学士および小学校・中学校・高等学校・幼稚園の教諭の免許				23		23

	二種免許状	小学校・中学校・高等学校・幼稚園の免許状				13		13
幼稚園教諭	専修免許状	修士	6	35	34		8	83
	一種免許状	学士	6	35	10		8	59
	二種免許状	短期大学士	4	27			8	39

3. 米国における大学アーティキュレーションについて

米国における大学アーティキュレーションは、州立大学システムや個別大学間で取り交わされる編入学基準や単位認定基準についての協定書（articulation agreement²⁾）から成り立っている。これは、「主に学位授与課程、すなわち強固な体系性をもったカリキュラムでの転学に適用されるもの」として運用されている（林, 2004）。米国では、1960年代に、高等教育の機会の拡大を目的として、コミュニティカレッジが増設された経緯があるが、これらの多くは4年制大学進学コースを備えたものであった。

コミュニティカレッジから4年制大学への接続が米国で普及した背景には、二つの理由が挙げられる。まず、Shkodriani（2004）が指摘するように、単親世帯、社会人学生、貧困層といった社会背景にある者が、その経済的、時間的負担を少しでも軽減するためにコミュニティカレッジを自分たちの高等教育の足掛かりとして選択してきた経緯がある。特に機会の均等化を促進したい米国社会において、こうした負担を極力排除できる高等教育課程は、非常に魅力的であり、特に公立（州立、市立を含む）の機関を中心にコミュニティカレッジと4年制大学の接続が展開される契機となったのである。

そして、2年制と4年制の高等教育機関間に存在する格差の解消という社会的目的が二つ目の理由として挙げられる。California Community Colleges Chancellor's Office（以下「CCCCO」という。）は、中等教育課程修了者（つまり高校卒業生）よりも高等教育課程修了者の方が、平均給与も高いという統計的事実を取り上げつつも、より良い給与を獲得するためには学士号を最低でも有していることが条件となりつつある事実も指摘している。コミュニティカレッジと大学との間に存在する給与格差解消の一つの手立てとして、CCCCOは、コミュニティカレッジを経て大学へと編入学することで、在学時の経済的負担を大幅に抑制できる上に、卒業後の給与格差の解消も実現されると主張している。こうした考え方はカリフォルニア州だけのものではなく、全米規模で提唱されているものである。

高等教育への門戸を拡げることと、卒業後の給与格差を解消するという目的から、米国における大学アーティキュレーションは発展してきたという側面がある。次節では、教員養成課程におけるアーティキュレーションの前に、米国における教員免許および教員養成制度について簡単に触れておきたい。

4. 米国における教員免許および教員養成制度について

現在、米国では、リベラルアーツカレッジと総合大学の教育学部を中心に教員養成が行われている。教員免許の交付は、各州の専管事項であるものの、全州において課程認定制度のもと、学士号の取得と、州が認定する教員養成課程の修了が教員免許取得の条件とされている。なお、1980年代前半以降は、教員数の不足に対応するため、伝統的な大学の教育学部における教員養成に加えて、新たに教員養成代替制度を使った教員養成を推奨する州が増えてきている。

そこで、伝統的な教員養成制度と教員養成代替制度について、それぞれその概要を述べる。初等中等教員の場合、基本的には、4年制大学の学士課程段階で教員養成が行われる。初等教員の場合、一般的には教育学部に所属し、教育学を専攻して教職課程を修了することになる。一方、中等教員の場合は、初等教員と同様で、教育学部に所属することもあるが、他学部所属で教育学以外を主専攻として所属学部で専門教育を受けつつ、教育学部の教職課程を履修することもある。ただし、担当科目の高い専門知識を有する中等教員に対する需要の高まりから、他学部所属しながら教員免許を取得する学生が近年とくに増えている。

大学が開設している教員養成課程の内容と質の維持向上は、州教育委員会等による教員養成課程認定制度と民間専門団体³による認証評価という公私二つの認定制度によって保証されている。州教育委員会等による教員養成課程認定を受けない限り、課程修了者が州の教員免許を受けることができないようになっている。なお、州の教員養成課程の認定基準は、民間専門団体が使っている基準に沿う形に調整されてきたことから、多くの州では、同一の基準による認定が行われている。

教員養成課程は、教育学、教育心理学、教育方法論⁴、生徒指導といった科目によって主に構成されている。等に、実習科目⁵が必修として課せられている。州の規定により多少の相違はあるものの、初等教員は学部の卒業単位（120～125単位で設定される）のうち50単位ほど、中等教員は26単位程度を教職関連科目として履修することが求められている。

教員養成代替制度は、上述のとおり、一時期は教員不足に対応するための制度として機能していたが、現在は、教員の不足を補うためだけでなく、教育以外の分野の経験や専門知識を有した優秀な人材を教育現場で確保するべく、重要な役割を果たすまでに至った。連邦政府も、理科系の専門職から教員を養成するプログラム等を積極的に支援している。2007年までには、全州およびワシントンDC地区でこの制度は導入された。この制度によって養成される教員数も増加傾向にある。

教員養成代替制度は、一般的には学士号取得者を対象としているが、更に課程への受け入れ条件として学力テスト等を課すという特徴も有する。この制度を利用する者は、30代や40代の他分野からの転職者が多い。そして、教員養成代替制度の課程を設置している機関の約半数は大学で、ほかに学区、州教育委員会等も課程を提供している場合がある。この制度を使って教員免許を取得するには、通常1年から2年間の期間を要する場合が多く、学士課程期間で教員免許を取得するよりも短期間での取

得が可能となっている。

5. 米国における教員養成課程での大学アーティキュレーションについて

前節にて紹介した米国における教員養成制度のもとで、各州、各機関はそれぞれに、より現状に則した形での教員養成の運用を思案してきた。その一つとして、大学アーティキュレーションが挙げられる。そこで、教員養成課程という特定の分野での大学アーティキュレーションの実際を次節で紹介する前に、この取り組みのなかで浮き彫りにされた諸課題について述べる。ここで取り上げる課題を克服しつつ、各機関は、教員養成のための大学アーティキュレーションの更なる促進に取り組んでいることを、始めに理解しておくことは重要であろう。

米国において、コミュニティカレッジは社会的地位上昇のために普及したという経緯がある。20 世紀前半頃まで、教員免許を取得するためには、2 年間の高等教育課程を経るだけでよかったため、多くの 2 年制大学 (junior college) が教員養成の中心を担っていた。しかし、20 世紀後半に入ると、教員資格として学士号の取得が最低条件として明示されるようになり、この考え方が全米へと波及していった。結果、コミュニティカレッジにおける教員養成課程は、それだけで完結したものというよりは、4 年制大学で教員免許状を取得するための通過点という扱いに甘んじるようになった。

1980 年代以降は、4 年制の大学には経済的理由等により入学できない教員志望の学生が、代替案としてコミュニティカレッジに入学して教員養成課程を受講するようになっている。そして、教員養成課程に限定して見た場合、大学アーティキュレーションは、コミュニティカレッジから大学へと編入学する際に、単位数の点で不利益を生じさせることなく円滑に移行できる体制の整備が主たる目的であった。これは、大学アーティキュレーションという概念が導入される以前に、卒業に必要とされる単位は取得できても専攻の条件を充足できず、結果的に教員免許が取得できないといった問題が実際に発生し、その対応策として必然的に俎上に載るようになった。

現在、教員養成課程での大学アーティキュレーションの多くは、コミュニティカレッジと大学を繋ぐ目的で運用されているものである。そして、頻繁に指摘される課題として、コミュニティカレッジでの学修経験と大学での学修経験に散見される大きな乖離がある。つまり、コミュニティカレッジでの学修は、より経験的、実践的、相互作用的な側面に重きを置くことが多いことに対して、大学での学修は、文献の重視、学術的かつ理論的な側面を前面に押し出したものであるため、コミュニティカレッジからの編入学生が、入学後にその差異に戸惑わされるということである。教員養成課程を受け持つ教員の思考も同様に異なっており、コミュニティカレッジから来た学生にとって、大学教員は、より知識の蓄積を重要視しているように映る。結果的に、教員養成課程に係る科目に対しての考え方も、コミュニティカレッジの教員は経験や実践を優先するが、大学教員は理論や研究についての知識の深化を優先する傾向が顕在する。

教員養成課程での大学アーティキュレーションを考えるにあたり、二機関間に存在する乖離をどのようにして埋めるべきかという課題を解消しなくてはならない。理論と実践の合一が教員養成の肝要な要素とされているものの、双方からの歩み寄りがない限り、どちらか一方に傾倒した教員養成課程という課題は残り続けることになる。大学アーティキュレーションを円滑に運用することで、コミュニティカレッジに通う学生らにも大学での教員養成課程への門戸を押し広げるためには、当然、綿密な調整が必要となる。次節では、事例紹介のなかで、その調整を実際にはどのようにして行ったかについても紹介する。

6. モデル事例紹介

本節で紹介する事例の多くはコミュニティカレッジと4年制大学との間で取り交わされた articulation agreement（単位互換に係る協定書）である。更にいえば、私立の大学が参画するものが非常に少ないのも特徴である。一般的には、編入元のコミュニティカレッジ等の機関で開設される科目と、編入後の大学等の機関で開設される科目とを対照できるような一覧も併記されており、現在の機関で履修している科目が編入後にはどの科目へと読み替えられるのかを事前に関係者が確認できる状態になっている。なお、ここで取り上げるものと類似の協定を結ぶ機関は多々存在していることから、教員養成を擁する高等教育機関のなかにある種のテンプレートのようなものが存在し、現在公立の機関を中心に積極的な展開を見せているように考えられる。

ちなみに、最後に紹介する Cornell University と Ithaca College との大学アーティキュレーションの提携は、ともに私立の大学ということもあり、米国における大学アーティキュレーションとしても新しい形態の一つと考えられる。

6. 1. 個別の機関間で締結されるケース

AN ARTICULATION AGREEMENT
BETWEEN
ROBERT MORRIS UNIVERSITY – ELEMENTARY EDUCATION
AND
COMMUNITY COLLEGE OF ALLEGHENY COUNTY – TEACHER EDUCATION

OBJECTIVE OF THE AGREEMENT

Based on the commonality of purpose and a mutual goal of assuring a quality education, Community College of Allegheny County and Robert Morris University enter into the following articulation agreement. The primary objective of this agreement is to maximize credit transferability. This agreement will afford students the opportunity to realize their educational goals and enhance their future employability through a curriculum that is both challenging and rewarding.

TERMS AND CONDITIONS OF THE AGREEMENT

This agreement applies to Community College of Allegheny County (CCAC) graduates with an earned Associate in Arts degree in Teacher Education who plan to enter Robert Morris University (RMU) in a Bachelor's (B.S.) degree program with a major of Elementary Education.

Up to 60 credits will be granted to students who have successfully completed an Associate in Arts degree in Teacher Certification provided that:

- Students have completed the curriculum as outlined in the CCAC 2004-2005 College catalog
- Students have fulfilled grade requirements of the major into which they are transferring.

Courses completed at other academic institutions do not affect the nature or scope of this agreement. Said courses will be evaluated according to the Academic Policies of RMU regarding transfer credits.

RMU will provide an official evaluation of all previously completed coursework and placement of those credits at the time of application.

RMU reserves the right to change program requirements and/or transfer equivalents.

Notice of changes in program requirements by any party of this agreement must be given in writing in a timely manner.

Termination of this agreement may be made by any party, and must be in writing.

CCAC will properly advertise and will provide information regarding RMU, its academic programs, requirements, and services extended to the transfer graduate under the terms of this agreement.

CCAC will communicate with the RMU Academic Services Office regarding issues and questions posed by participating students.

CCAC will provide the RMU Enrollment Management Office at the end of each semester with the names and addresses of CCAC students who have indicated an interest in attending RMU and would benefit from major department activity information.

This agreement will be in effect for a minimum of four years and will be reviewed for change and continuation annually.

The undersigned duly authorized officials agree to abide by the above terms and conditions.

APPROVED BY:

COMMUNITY COLLEGE ALLEGHENY COUNTY ROBERT MORRIS UNIVERSITY

 6/8/04
Stewart Sutin, Ph.D. Date
President


Edward A. Nicholson, Ph.D. Date
President

CCAC COURSES		RMU EQUIVALENTS	
First Semester			
ENG101	English Composition I	COSK1220	Reading and Writing Strategies
MAT	Math Elective (<i>MAT103</i>)	MATH1020	College Mathematics II
PSY101	Intro to Psychology	PSYC1010	General Psychology
SPH101	Oral Communications	COSK2220	Public Speaking and Persuasion
	Humanities Elective	HUMA1010	Intro to Humanities: Art and Music
Second Semester			
EDU201	Foundations of Education	EDUC2000	Schools and Society
ENG102	English Composition II	COSK1221	Argument and Research
PSY210	Child Psychology	PSYC2620	Child Psychology
	Science Elective	Natural Sci Elec	Science Elective (RMU Core)
	Social Science Elective (<i>SOC101</i>)	SOCI1010	Principles of Sociology
Third Semester			
EDU202	Instructional Technology	COMM2500	Instructional Media Design
PSY201	Educational Psychology	EDUC2100	The Learner
ENG	English Elective (<i>ENG117</i>)	ELIT1070	Children's Literature
	Geography/History Elec (<i>GEO101</i>)	GEOG1020	World Geography
MAT	Math Elective (<i>MAT107</i>)	MATH2010	Fundamental Concepts of Math
Fourth Semester			
	Social Science Elec (<i>POL103</i>)	POLS1020	American National Government
EDU204	Field Experience in Education	ELED4060	Field Experience I
	Geography/History Elec (<i>HIS104</i>)	HIST1020	United States History I
ENG	English Elective:		
	ENG105 Creative Writing ¹	ENGL3020	Creative Writing
	MAT161 Elementary Statistics ²	STAT2110	Statistics
	Any Natural Science ³		Science Elective
	HIS105 United States History II ⁴	HIST1025	United States History II
	Humanities Elective:		
	ENG209 World Literature ¹	ELIT2055	World Literature
	MAT201 Calculus I ²	MATH2070	Calculus with Analytic Geometry I
	Any Natural Science Elective ³		Science Elective
	ECO102 Principles of Macroecon ⁴	ECON1020	Prin of Macrecon for ECON1010

¹ English/Communications Concentration

² Mathematics Concentration

³ Science Concentration

⁴ Social Science Concentration

ROBERT MORRIS UNIVERSITY			ACADEMIC REQUIREMENTS FOR Bachelor of Science Major: ELEMENTARY EDUCATION		
EFFECTIVE FALL 2004					
1. ROBERT MORRIS UNIVERSITY CORE--39 Credits					
COSK1220 Reading and Writing Strategies COSK1221 Argument and Research COSK2220 Public Speaking and Persuasion COSK2230 Professional Communications ECON1010 Survey of Economics ELIT1070 Children's Literature HIST1020 United States History to 1877	3 ENG101 3 ENG102 3 SPH101 3 3 ECO102** 3 EDE311 3 HIS104	HUMA1010 Humanities: Art and Music INFS1050 Fundamentals of Information Systems MATH1020 College Mathematics II or MATH1050 Math Reasoning with Applications PSYC1010 General Psychology SOCI1010 Principles of Sociology or SOCI2320 Contemporary American Social Problems ____ Natural Science Elective (Any Nat Sci)	3 MUS101 3 3 MAT103* MAT108 3 PSY101 3 SOC101 3 *****		
See reverse side for courses that will satisfy Natural Science Electives					
2. PROFESSIONAL EDUCATION--54 Credits					
*EDUC2000 Schools and Society *EDUC2100 The Learner *EDUC3100 The Learning Environment *ELED3010 Special Needs in the Elementary Classroom *ELED3050 Educational Assessment *ELED3350 Elementary Content Area Reading/Practicum *ELED4010 Reading Methods *ELED4020 Language Arts Methods	3 EDU201 3 PSY201 3 3 3 3 3 3	*ELED4030 Social Studies Methods *ELED4040 Mathematics Methods *ELED4050 Science/Health Methods *ELED4060 Field Experience I for Elementary Education *ELED4061 Field Experience II for Elementary Education ELED4200 Student Teaching *ELED4210 Student Teaching Seminar	3 3 3 3 EDU204 3 13 2		
3. MAJOR--24 Credits					
*COMM2500 Instructional Media Design *ELED1000 Technology Literacy for Education *ELED2000 Electronic Media for Teachers *GEOG1020 World Geography	3 EDU202 3 3 3 GEO101	*MATH2010 Fundamental Concepts of Mathematics *POLS1020 American National Government *PSYC2620 Child Psychology *SCIE1020 Fundamental Science Concepts	3 MAT107 3 Soc Sci Elec 3 PSY210 3		
4. CONCENTRATIONS--9-11Credits (Select <u>one</u> area of concentration from the following.)					
Mathematics Concentration (E5) *This Concentration requires MATH1020 as a prerequisite MATH2070 Calculus and Analytic Geometry I MATH2170 Calculus and Analytic Geometry II or or MATH3400 Linear Algebra with Applications STAT2110 Statistics			Science Concentration (E7) ENVS1160 Ecology of the Changing Planet or ENVS1170 Environmental Health ____ Science Elective ____ Science Elective (Choose from BIOL, CHEM, GEOL, PHYS, OR SCIE Disciplines)		
English/Communications Concentration (E6) ENGL1000 Modern English Grammar and Editing Select Two: ELIT1030 African American Literature and Experience ELIT1040 Reading Literature: Coming of Age or ELIT2050 Classics, Myths and World Literature ELIT2055 World Literature ENGL2500 Study of Rhetoric ENGL3020 Creative Writing			Social Studies (E8) HIST ____ History Elective (Choose from HIST1030, HIST1035, HIST1060, HIST1065 or HIST2000) *SOSC ____ Social Science Elective *SOSC ____ Social Science Elective (Choose from ANTH, ECON, GEOG, POLS or SOCI Disciplines)		
Foreign Language (E0) ____ Foreign Language Elective ____ Foreign Language Elective ____ Foreign Language Elective (Choose from FREN, GRMN, or SPAN Disciplines)			Technology (E9) Select three (3) courses from the following: ARTM1830 History of Visual Communications COMM2060 Photography INFS2412 Desktop Publishing INFS2120 Visual Basic Programming INFS2121 Advanced Visual Basic Programming INFS3150 Intro to Web Development/E-CommerceTechnology INFS3151 JAVA Programming		
IMPORTANT NOTES: *Required for the Mathematics Concentration **Taken by students who wish to enter the Social Sciences Concentration					
Major Code ELED					

協定の目的：

目的の共通性や質の高い教育という目標の共有にもとづき、アレゲーニー郡コミュニティカレッジとロバートモリス大学は、次の協定を締結するに至った。協定の主たる目的は、単位の移動性の最大化である。この協定および高水準なカリキュラムを通して、学生らが教育目標を実現し、将来的雇用可能性を向上させる機会を得ることが期待される。

諸条件：

この協定は、教師教育準学士号を取得してアレゲーニー郡コミュニティカレッジを卒業し、その後ロバートモリス大学で初等教育を専攻し学士号を取得することを希望する者に適用される。

以下の条件に該当する場合、教師教育準学士号の取得により最大 60 単位まで編入先の大学へ移すことが認められる。

- ✧ 学生要覧に記載される教育課程を修了した者

- ✧ 編入先での専攻で求められる成績要件を満たした者

他の機関で取得された科目の単位についても、この協定の範囲に含まれるものである。当該科目は、ロバートモリス大学の編入学規定に基づいて評価されることになる。

出願に際し、ロバートモリス大学は、それまでに履修されてきた科目の評価と科目の割り当てを行う。

ロバートモリス大学には、本プログラムにおける要件や編入換算の変更を実施する権利が認められる。

時間的余裕を確保した上で、このような変更についての連絡が行われるように配慮はされる。

本協定の範囲に含まれる機関であれば、いずれの機関も、書式により本協定の破棄を要求することができる。

アレゲーニー郡コミュニティカレッジは、ロバートモリス大学が提供するプログラム、要綱、編入制度利用者へのサービス等に関して、適切な告知と情報提供を行う。

アレゲーニー郡コミュニティカレッジは、ロバートモリス大学教学部と連携し、課題や質問へ対応する。

アレゲーニー郡コミュニティカレッジは、各セメスター終了時に、ロバートモリス大学入学管理部へ当該大学への編入希望者の名前と住所を連絡する。

この協定は、4 年間有効であり、その後は毎年更新のための修正が行われるものである。

6. 2. 州規模で展開されるケース

Phase III

**STATEWIDE ELEMENTARY TEACHER EDUCATION ARTICULATION
AGREEMENT**

Between

COLORADO PUBLIC COMMUNITY/JUNIOR COLLEGES

Aims Community College
Arapahoe Community College
Colorado Mountain College
Colorado Northwestern Community College
Community College of Aurora
Community College of Denver
Front Range Community College
Lamar Community College
Morgan Community College
Northeastern Junior College
Otero Junior College
Pikes Peak Community College
Pueblo Community College
Red Rocks Community College
Trinidad State Junior College

and

COLORADO PUBLIC FOUR-YEAR INSTITUTIONS OF HIGHER EDUCATION

Adams State University (B.A. Interdisciplinary Studies)
Colorado State University-Pueblo (B.S. Liberal Studies)
Colorado Mesa University (B.A. Liberal Arts)
Fort Lewis College (B.A. Interdisciplinary Studies)
Metropolitan State University of Denver (B.A. Human Development)
University of Colorado Boulder (B.A. History)
University of Colorado Colorado Springs (B.A. Biology, B.A. English, B.A. Geography
and Environmental Studies, B.A. History or B.A. Spanish)
University of Colorado Denver (B.A. Individually Structured Major)
University of Northern Colorado (B.A. Interdisciplinary Studies)
Western State Colorado University (B.A. Interdisciplinary Studies/Liberal Arts)

Front page only modified July 9, 2012 by GE Council.

For more information, please contact Colorado Department of Higher Education 303-866-2723

In accordance with C.R.S. 23-1-108.5 (1) and C.R.S. 108 (7)(a) the participating institutions agree to the following policies governing the transfer of credit earned at a Colorado community college into a degree program for students seeking elementary education licensure offered at any of the Colorado public four-year colleges and universities listed above.

Section I: Graduation Requirements for Students Seeking Elementary Education Licensure

- A. Institutional graduation requirements, including minimum number of hours and minimum grade average.

A transfer student who is seeking elementary education licensure will meet the same graduation requirements as a native student, including enrollment in an approved teacher preparation program, grade point average, and enrollment in specified courses that align with Colorado standards. A transfer student from a Colorado public community college who has earned an Associate of Arts (A.A.) degree designated for the elementary education track as defined in this agreement will need to complete no more than 66 credits to earn the baccalaureate degree at the four-year institution (60 plus 60-66 transfer agreement).

- B. Universal transfer courses for the elementary teacher education program.

A community college student who is planning to become an Elementary Education Teacher will sign a graduation plan at the community college that identifies the first 41 credit hours that are guaranteed to transfer to particular teacher education programs (see page one) that are offered by Colorado public institutions of higher education. The courses are listed in Table I of this agreement.

To complete the A.A. graduation requirements, students, who have completed or are currently enrolled in courses that will total the first 41 credits, will apply to a specific teacher education program and be advised by it on the other 19 credits guaranteed to transfer. Priority should be given to 3-4 credit hours of humanities. The receiving institution, however, has final authority of approval over the other 19 credit hours.

All courses described herein are guaranteed to transfer into particular teacher education programs (described on page one)

upon admission. Students need not complete the A.A. degree to transfer any or all of these courses.

C. Second Year, Second Semester of Graduation Agreement (other 19 credit hours)

During the first semester of the student's sophomore year (or the equivalent term when the student will complete the 41 credits outlined in the elementary education graduation agreement), the student may sign an agreement for the other 19 credit hours that will be co-signed by both the community college and the four-year college.

A signed agreement between a community college and a receiving four-year institution only ensures that the other 19 credits are guaranteed to transfer upon admission to the receiving teacher education program. Admission to neither the receiving institution nor its teacher education program is guaranteed.

This agreement entitles the student to:

- Advice from the four-year institution on the other 19 credit hours that will be guaranteed to apply to the graduation requirements that lead to an elementary education licensure.
- A graduation plan that meets the community colleges' Associate of Arts requirements and transfer of any credits earned at the four-year institution as meeting the A.A. graduation requirements.
- Ability to enroll in selected courses offered at the four-year institution, including on-line or on-campus classes if not available at the community college subject to inter-institutional agreements or non-degree policies of the 4-year institution.

D. A transfer student must apply and be successfully admitted to the school of education or appropriate education program at the receiving four-year institution in order to complete the licensure program. Some colleges and universities require that a transfer student apply and be fully admitted to an appropriate degree program as specified by the receiving institution. However, admission to neither the receiving institution nor its teacher education program is guaranteed.

TABLE 1: Guaranteed General Education and Major Courses for Elementary Education Students.

	Credit Hours	Community College Course Number	Course Title	Condition
<i>General Education Courses</i>				35
English	3	ENG 121 and ENG 122	College Composition and Composition II	B or better (see IIA 3 below)
Speech	3	COM 115	Public Speaking	
Math	6	MAT 155 and MAT 156	Integrated Math I and Integrated Math II	
Humanities	3	LIT 115 or LIT 201 or LIT 202 or LIT 211 or LIT 221	Introduction to Literature Masterpieces of Literature I Masterpieces of Literature II Survey of American Lit I Survey of British Literature I	
Science	8	SCI 155 (4) and SCI 156 (4)	Integrated Science I and Integrated Science II	
Social Sciences	9	GEO 105 and HIST 201 and POS 111	World Regional Geography U.S. History I American Government	
<i>Education Requirements</i>				6
Education	3 3	EDU 221 and PSY 238	Intro to Education and Child Development	
TOTAL				41 Credit Hours

Some institutions may require prescribed general education courses (e.g., music) in addition to the courses listed above. If so, these must either be included among the final 19 credit hours (see "C" above) at the community college or must be completed at the four-year institution to complete the baccalaureate degree.

Section II - Transfer of Credit

A. Policies for accepting grades in transfer.

- Only academic courses with a letter grade of "C" or better will be accepted for transfer.

2. Courses with grades of "F", "D", "IP", "I", "U", "AU", and "Z" are not transferable.
 3. Only courses with grade of "B-" or better are accepted for English Composition (ENG 121). This is a standard teacher education admission standard in Colorado.
- B. The four-year college or university will accept all credits in the student's teacher education graduation agreement earned within ten years of transfer. Courses earned more than ten years earlier will be evaluated on an individual basis.
 - C. This transfer credit is guaranteed under the condition that the community college maintains current accreditation by The Higher Learning Commission of the North Central Association of Colleges and Schools.

Section III: Student Appeals Process

An appeal related to denial of transfer credits will follow the Colorado Commission on Higher Education student appeal process.

Section IV: Term, Modifications and Severability

- A. The term of this agreement shall be for a period of four years, commencing on July 1, 2006, and terminating on June 30, 2010. This agreement may be extended upon mutual agreement of all parties.
- B. Modifications to this agreement may be made if they are required due to unforeseen circumstances, such as material changes to Colorado State Board of Education licensure rules, the CCHE gtPathways curriculum, or the status of courses found in Table 1 of this agreement that are guaranteed for transfer by CCHE. Any modifications to this agreement must be in writing and fully executed by all parties to the agreement.
- C. During the term of this agreement, any participating institution may terminate its involvement if 90 days prior written notice is given to CCHE. If a notice of termination is given, the receiving institution must continue to honor all signed agreements with students for a period of five years or until all students have withdrawn or graduated, whichever comes first.

Chief Academic Officer

President/Chancellor

Institution

Date

C. R. S. 23-1-108. 5(1)および C. R. S. 108(7) (a)に則り、該当する各機関は、冒頭に記載されたコロラド州のコミュニティカレッジで得た単位を、同じく冒頭に記載された同州内の4年制公立大学に開設される初等教育教員養成課程での科目単位として認定することに同意する。

セクション1：初等教員免許取得を希望する学生の卒業要件

A) 卒業要件（必要最低限単位数およびGPAを含む）

初等教員免許の取得を希望する編入学生は、通常の学生と同様の卒業要件（教員養成課程の修了、GPA、コロラド州設定の水準に則った科目の履修を含む）を満たさなくてはならない。コロラド州に設置される公立コミュニティカレッジで、この協定が認めた初等教育課程における準学士号を取得した編入学生は、4年制大学での卒業要件で示される単位数（編入元での60～66単位と編入先での60単位）を満たすために、66単位を上限に取得しておくなくてはならない。

B) 初等教育職員養成課程における編入学生用共通科目

初等教育職員を目指すコミュニティカレッジの学生は、コロラド州内にある公立大学にて開設されている教員養成課程の科目単位として認定される41授業単位の取得を承諾することになる。科目については、別表を参照すること。

準学士号を取得するために、上記の41単位を取得済み、もしくは履修中の学生は、特設の教員養成課程にてその後編入先での単位として認定される19単位を履修することになる。とくに、人文科学に関する科目（3～4単位）は優先して取得することが求められる。ただし、編入先の大学に、19単位の認定の可否に関する最終的な権限があることには留意されたい。

この協定にて提示される全ての科目は、入学した際には、教員養成課程における科目単位として移行できる。ただし、全ての科目を移行する必要はないことも、留意されたい。

C) 2年次の第2セメスターにおける同意

2年次の第1セメスター（もしくは41単位の取得の目処が立つ学期）時に、学生は、コミュニティカレッジならびに大学の双方によって承認された19単位の取得に同意することが求められる。

これにより、大学への編入学および教員養成課程受講が許可された場合にのみ、先述の19単位は移行されることが保証される。したがって、大学への入学ならびに教員養成課程の受講が自動的に保証されるものではない。

また、これにより、学生は、以下の権利を与えられる。

✧ 初等教員免許取得に際し必要となる19単位に関して、受け入れ先の大学から助言を受けられる。

- ✧ 準学士号取得および卒業要件を満たす際に、他大学で取得した単位の移行が認められ、同時に卒業までの履修計画が示される。
 - ✧ コミュニティカレッジで当該科目の履修が不可能な場合、協定等の提携関係にはない大学の科目を履修（通学課程での科目に加えてオンライン科目も含まれる）することができる。
- D) 編入学生が教員免許を取得するためには、大学への入学と同時に、教育学部もしくはそれに準ずる教育課程への進学が必須義務となる。編入先の大学によっては、特定の課程を修了することを入学の条件としていることもある。いずれの場合においても、編入学ならびに教員養成課程の受講が自動的に保証されるものではない。

セクション 2：単位の移行

- A) 編入学時の成績に関する受け入れ方針
- ① 編入学においては、C以上の評価のみ、単位として認定される。
 - ② F、D、I P、I、U、AU、Z評価の場合、単位として認定されない。
 - ③ B-以上の評価の場合のみ、英語（ENG121）の科目単位として認定される。これは、コロラド州の教員養成入学基準に則ったものである。
- B) 協定にて指定された科目において、編入までの10年間で取得した単位については、編入先の大学で認定される。10年間を越えるものについては、個別に判定することになる。
- C) 北中部大学学校協会・高等学修委員会に認証されたコミュニティカレッジにのみ、この協定は有効となる。

セクション 3：学生による異議申し立て

編入学に際して認定されなかった単位に関しての意義申し立ては、コロラド州高等教育委員会が定める手順に沿って行われなくてはならない。

セクション 4：期間、内容の変更、契約の分離

- A) この協定は、2006年7月1日から2010年6月30日まで有効である。また、双方の合意のもと、延長されることもある。
- B) たとえばコロラド州教育委員会によって定められる教員免許規定、コロラド州高等教育委員会が考案する教育課程ならびに単位認定科目一覧に変更が加えられる等、今後の状況次第では、この協定の内容を変更する場合がある。いかなる内容の変更についても、書面にて、協定に関与する全ての機関の管理の下実施される。

- C) 協定期間中において、90 日間の猶予をもってコロラド州高等教育委員会へ通知された場合にのみ、協定から脱退することが認められる。脱退の旨が通知された場合、編入先の大学に在籍する学生のうち脱退までの5年間で編入学した者については、当該学生が履修を取り消すか、ないしは、卒業するまで、その身分を保障しなくてはならない。

6. 3. 学部と大学院を接続するケース

Teacher Certification Transfer Articulation Agreement between Ithaca College and Cornell University

This articulation agreement facilitates the entry of Cornell undergraduates into Ithaca College graduate teacher education programs. The agreement is based on a mutual commitment by Cornell University and Ithaca College to support the preparation of outstanding, academically-talented teachers for today's schools.

This agreement is designed for students at Cornell University completing a Bachelor's degree who wish to attend Ithaca College to pursue either a Master of Science (M.S.) in Childhood Education—which leads to certification to teach grades 1-6—or a Master of Arts in Teaching (M.A.T.)—which leads to certification to teach grades 7-12 in the areas of English, history/social studies, Spanish, French, mathematics, biology, chemistry, or physics.

Students at Cornell University will be granted admission to the M.S. in Childhood Education or M.A.T. program at Ithaca College provided that the following requirements are met:

1a. Students interested in the **M.A.T. program** (to teach in grades 7-12) must successfully complete a Cornell University major in the desired area of certification. In the case of history/social studies, the major may be history or government, but the applicant must meet the state certification requirement that coursework include "study of economics, government, and at least a total of 21 semester hours of study in the history and geography of the United States and the world."

1b. Students interested in the **M.S. program** (to teach in grades 1-6) must have taken at least 6 credits in *each* of the core areas of the elementary-school curriculum:

- *English language arts (English, Writing, Communications)
- *Mathematics (Mathematics, Statistics)
- *Science (Biology, Chemistry, Earth Science, Environmental Science, Physics)
- *Social Studies (History, Political Science, Geography, some Sociology/Anthropology)

2. Students must successfully complete the Cornell University Education Minor with a set of courses satisfying the entry requirements of Ithaca College's M.S. and M.A.T. programs. Specifically, students should complete the following (or their equivalents as determined by the director of the Education Minor at Cornell University):

- * EDUC 2410, *The Art of Teaching*, 3 credits
- * EDUC 2710 (cross-listed as EDUC 5710, AMST 2710, DSOC 2710, SOC 2710), *Social and Political Context of American Education*, 4 credits
or
EDUC 3405 (cross-listed as AMST 3405, ANTHR 3405, LSP 3405), *Multicultural Issues in Education*, 4 credits
- * EDUC 3110 (cross-listed as HD 3110), *Educational Psychology*, 4 credits
- * EDUC 4040, *Engaging Students in Learning*, 4 credits

3. A minimum 3.0 cumulative grade point average is earned, as well as a minimum 3.0 in the major, and the student is making satisfactory progress in the final semester courses prior to admission to Ithaca College.

4. The student has satisfactorily completed the Ithaca College Admission Application Process. **Note: The IC application requirement for two letters of recommendation will be waived if the student is recommended by the director of the Education Minor at Cornell University.**

5. The student is in good disciplinary standing at Cornell University.

Applicants who do not meet the above-listed requirements and/or who have course withdrawals and/or incompletes on their transcripts are not eligible to participate in this articulation agreement but can be considered for admission to the M.S. or M.A.T. program at Ithaca College on an individual basis.

Applicants are eligible to apply for Graduate Assistantships at Ithaca College.

Applicants pursuing an M.A.T. in mathematics, chemistry, physics, or biology are eligible to apply for Noyce grants through Ithaca College.

The director of the Education Minor at Cornell University will advertise this articulation agreement among Education minors and among students in Education classes.

An earlier version of this teacher certification articulation agreement between Ithaca College and Cornell University became effective on January 1, 2012. The current updating of the original agreement becomes effective September 1, 2014. This agreement can be modified, as deemed necessary, by mutual consent of the two institutions. Discontinuation of this articulation agreement, as deemed necessary by either institution, requires an advance notice of one year.

この協定は、コーネル大学の学部を卒業した者が、イサカカレッジ教職大学院への入学を促すことを主たる目的としている。両校が、今日の学校教育に貢献できるだけの高い資質と学術的能力を有する教員を養成することに従事することにより、初めて成り立つものである。

この協定は、コーネル大学にて学士号を取得する学生のうち、イサカカレッジにて児童教育修士号（1～6年生までを教えられる教員免許の取得も含む）もしくは教授法修士号（7～12年生までの英語、歴史・社会、スペイン語、フランス語、数学、生物、化学、物理を教えられる教員免許の取得を含む）の取得を希望する者が対象となる。

次の条件を満たした場合、コーネル大学の学部生は、イサカカレッジで提供される上記の修士課程への入学が認められる。

- ① 教授法修士号の取得を考える学生は、コーネル大学にて、教員免許に関連する学問分野を専攻していることが条件である。歴史・社会の分野の場合、専攻は歴史学か政治学となろうが、

その際、経済学、政治学、そして最低でも 21 セメスター単位の世界史学・世界地理学および米国史学・米国地理学を履修していることが、州の認定要件にあることも留意が必要である。

もしくは

児童教育修士号の取得を考える学生は、初等教育課程における各コア分野から少なくとも 6 単位ずつ科目を履修していなくてはならない。

✧ 英語言語科目（英語、ライティング、コミュニケーション）

✧ 数学（数学、統計学）

✧ 科学（生物学、化学、地学、環境学、物理学）

✧ 社会科学（歴史学、政治学、地理学、社会学・人類学）

- ② コーネル大学在学時に、教育学を副専攻とし、とくに下記の科目を履修することが求められる。

✧ EDUC2410 指導技術（3 単位）

✧ EDUC2710（または EDUC5710、AMST2710、DSOC2710、SOC2710） アメリカにおける教育の社会的・政治的状況（4 単位）

もしくは

EDUC3405（または AMST3405、ANTHR3405、LSP3405） 教育における多文化問題（4 単位）

✧ EDUC3110（または HD3110） 教育心理学（4 単位）

✧ EDUC4040 主体的・積極的な学習参加（4 単位）

- ③ 累積 GPA が 3.0 以上かつ専攻科目における GPA が 3.0 以上であることと、最終セメスターでの科目履修時の成績がもっとも高い状態へと推移していなくてはならない。

- ④ 滞りなくイサカカレッジへの出願手続きを済ませなくてはならない。【注意】コーネル大学で教育学副専攻統括者から推薦を受けた学生については、2 通の推薦状をイサカカレッジに提出する必要はない。

- ⑤ コーネル大学にて、規律の面での高い評価を示さなくてはならない。

上述の条件を満たせなかった者や、成績証明書に履修取り消しまたは成績保留の履歴が記載されている者は、本協定によって提供されるプログラムに参加する資格を有さないが、個人としてこれらの修士課程を志願することは許可される。

志願者は、イサカカレッジにて大学院助手へ応募する資格を得ることができる。

数学、化学、物理学、または生物学分野での教授方修士を考えている志願者は、イサカカレッジを介してノイス奨学金へ応募する資格を得ることができる。

コーネル大学教育学副専攻統括者は、教育学を副専攻とする者および教育学の科目を履修する者に対し、この大学アーティキュレーション協定のことを告知することとなる。

以前の協定は、2012年1月に有効となった。現在の修正版協定は、2014年9月に有効となる。この協定は、今後必要に応じて、双方の合意のもと修正されることがある。一方から本協定の破棄が要求された場合、1年の猶予が必要となる。

7. おわりに

教員養成課程については、日米双方とも何かしらの認定を受けている必要がある。日本の場合は文部科学省による課程認定があり、米国では先述のとおり州ならびに民間の認証評価団体による課程認定が必要となっている。つまり、大学アーティキュレーションの運用という点において、日米に大きな条件的差異は存在しないと考えられる。本節では、米国における教員養成課程での大学アーティキュレーションの運用の実際から示教される事項について述べる。

まず、教員養成課程を置く大学の場合、課程認定が国によって執り行われるということは、米国以上に、課程の内容の統一化が図りやすい環境にあるとも考えられる。米国の場合は、州ごとに基準も異なり、更に2つの民間認証評価団体が存在するため、教員養成課程の基準も相対的に多様化する傾向は否定できない。その点、中央集権的かつ個性を埋没させるという批判的見方もできようが、国が一貫して課程の認定を行う日本の体制は、ある意味で利点とも考えられる。したがって、国が中心となって教員養成課程にて開設される諸科目の内容の細かな基準を策定できれば、教員免許を取得するために履修する科目は教育職員免許法によって一括して規定されているため、単位の移行がより円滑に行えよう。これが実現されれば、一つ目の事例として取り上げた個別の機関間で大学アーティキュレーションの運用が可能となろう。

つぎに、二つ目の事例として取り上げた州規模で展開される大学アーティキュレーションの在り方は、地域密着型の短大と大学間で実現することが可能ではないだろうか。米国の場合は教員免許が州の管轄ということもあり、物理的に地域密着型の教員養成が行わざるをえないという現実があるものの、同様に、日本においても志願者の多くがその地域から集まって来るような教員養成系の短大、大学の場合、学生の編入学においても他地域へと流出するという可能性は低くなる。学生の流出が比較的抑制された状態にあれば、両機関での共通科目の調整等も行いやすく、同様に、短大を卒業した学生の吸い上げも見込めよう。

最後に、三つ目の事例として取り上げたように、大学院での教員養成の在り方も積極的に検討すべきであろう。日本の場合、専修免許を取得するためには履修すべき科目の単位数が一種、二種に比して多いという点がたびたび難点としてあげられるが、学士課程の4年間と修士課程の2年間を始めか

ら念頭に置いて教員養成課程を構築することができれば、この課題は解消できよう。従来4年間で教員免許を取得させてきたことが、かえって時間的余裕を失わせてきたことは、教育実習が短いという批判からもうかがえよう。日本では教員養成課程を6年制にするという話が以前あったが、その移行措置または代案としても、米国で実際に運用されている大学と大学院間における大学アーティキュレーションは大いに参考できよう。

日本で大学アーティキュレーションの考え方が浸透するためには今後更なる時間を必要とするであろうが、教員養成の分野においても、短大から大学への移行、もしくは教員免許の所要資格の向上を強く希望する学生からの要望には応えきれていないのが現状である。現在日本の教員養成を提供する高等教育機関が直面している問題の解決策として、大学アーティキュレーションの導入を、諸機関を巻き込む形でより一層積極的に検討することが期待される。

<参考文献>

- ・ California Community Colleges Chancellor's Office.
URL: <http://californiacommunitycolleges.cccco.edu>, 2015. 3. 25
- ・ Kates, L. R. (2010). Student Perspectives on Transfer and Articulation: Implications for Teacher Education Pedagogy and Practice. *The New Educator*, 6, 30-55.
- ・ Shkodriani, G. (2004). Seamless Pipeline from Two-year to Four-year Institutions for Teacher Training.
URL: <http://www.ecs.org/clearinghouse/49/57/4957.pdf>, 2015. 3. 25
- ・ アメリカ教育学会, 2010, 『現代アメリカ教育ハンドブック』 東信堂.
- ・ 林美央, 2004, 「アメリカ高等教育におけるアーティキュレーション・システムの標準化―体系性・連続性と弾力性の両立問題―」『学位研究』(18) 107-131.

¹ 中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会「これからの学校教育を担う教員の在り方について(報告)」平成26年11月6日。

² ほかに、transfer agreement、transfer guide、transfer pathwayといった名称も存在する。本稿では、より一般化した名称である articulation agreement に統一している。

³ 長年にわたり教員養成の基準認定は、1954年に設立された全米教員養成認証評価審議会(The National Council for Accreditation of Teacher Education, NCATE)によって行われていた。しかし、1997年に新しく教員養成認証評価審議会(The Teacher Education Accreditation Council, TEAC)が設立されたことから、現在、これら二団体が、教員養成課程の審査を実施している。

⁴ 初等教員の場合は、読み書き、算数、理科、社会等全般にわたる。中等教員の場合は、教員免許を

受ける専門科目に関する教育方法論を学ぶ。

⁵ これは英語では practicum と表されるが、日本でいうところの授業観察、教育実習に該当する。

第3章 英国におけるアーティキュレーションについて

川嶋 太津夫

1. はじめに

英国の教育制度の特色

英国の教育制度は（ここでは、4カ国からなる連合王国を指す。ただし、連合王国を構成する特定の国を指す時は、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドと具体的に記述する）、高等教育も含めて日本と異なる側面も多いので、最初にその特色について触れておく。

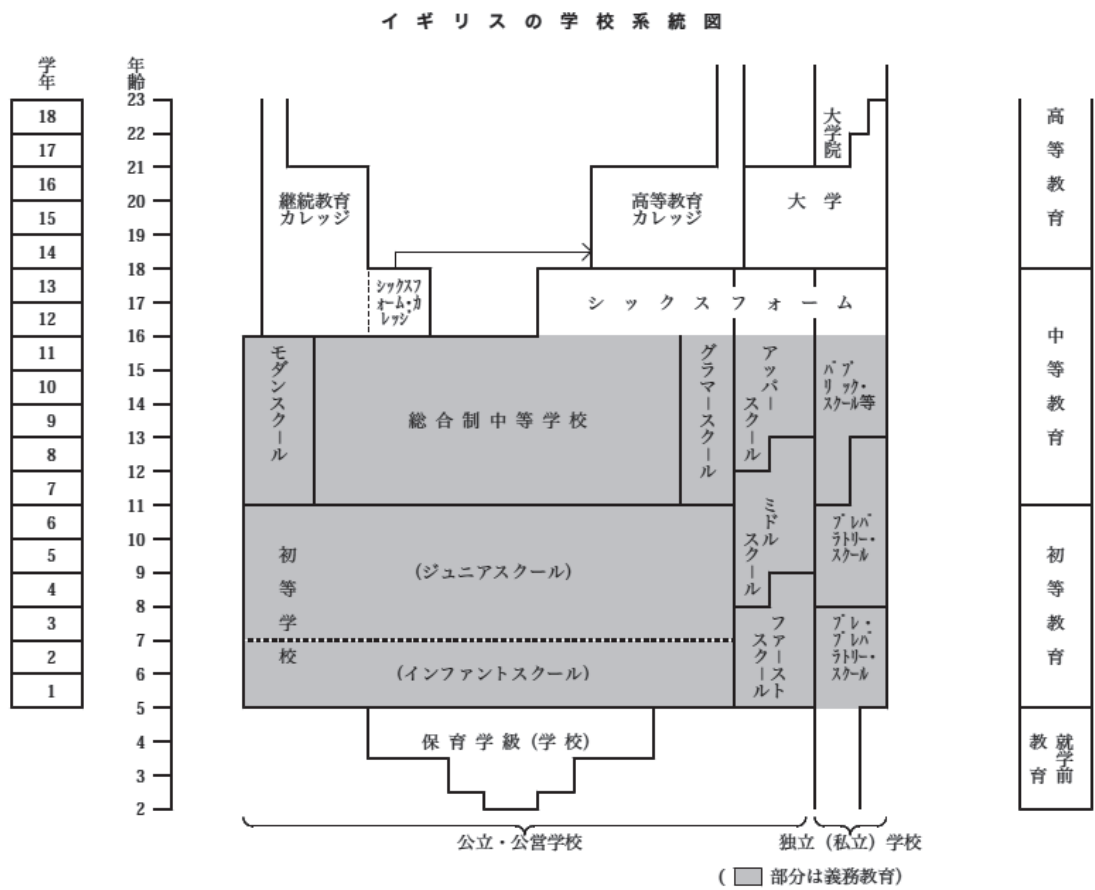


図-1 英国の教育制度

出典：文部科学省「教育指標の国際比較平成25年版」

図-1は、英国の教育制度を示したものである。図中に示されているように5歳から16歳までが義務教育であり、それ以降は「継続教育 Further Education」と「高等教育 Higher Education」となる。高等教育は18歳からで、学士課程は一般的には3年間である。ただし、スコットランドでは高等教育は17歳からで、学士課程は4年間である。

継続教育には、二つのタイプがあり、一つは「学術コース Academic Course」であり、主に大学進学のための準備教育を提供している。もう一つは「職業・技術コース Vocational/technical Course」で、就職や職業に必要な技術教育を提供している。

図-2に示すように、我が国と大きく違うのは、様々な段階の教育・訓練プログラムの修了と、能力の修得を証明する様々な「資格 Qualification」が緊密に結びついており、進学するにしろ、就職にしろ、どのような資格を有しているかが重要な意味を持つ。学術コースで獲得できる代表的な資格は「Aレベル」や「国際バカロレア」である。他方、職業・技術コースでは様々な国家職業資格(NVQ、BTEC、OCR)が得られる。

Main Stages of education / employment	Qualifications and Credit Framework/National Qualifications Framework for England, Wales and Northern Ireland www.cqf.gov.uk	Credit and Qualification Framework for Wales www.cqfw.net	National Framework of Qualifications for Ireland www.nfqi.ie	The Scottish Credit and Qualifications Framework www.scqf.org.uk	Framework for higher education qualifications in England, Wales and Northern Ireland www.qaa.ac.uk/academicinfrastructure/theq
Professional or postgraduate education, research or employment	8 Vocational Qualifications Level 8	8 Doctoral Degrees	10 Doctoral Degree Higher Doctorate	12 Professional Development Awards Doctoral Degrees	8 Doctoral Degrees
Higher education Advanced skills training	7 Fellowships NVQ Level 5 Vocational Qualifications Level 7	7 Master's Degrees Integrated Master's Degrees Postgraduate Diplomas Postgraduate Certificate in Education (PGCE) Postgraduate Certificates	9 Master's Degree Postgraduate Diploma	11 Professional Development Awards Postgraduate Diplomas Master's Degrees Integrated Master's Degrees Postgraduate Certificates	7 Master's Degrees Integrated Master's Degrees Postgraduate Diplomas Postgraduate Certificate in Education (PGCE) Postgraduate Certificates
Entry to professional graduate employment	6 Vocational Qualifications Level 6	6 Bachelor's Degrees with Honours Bachelor's Degrees Professional Graduate Certificate in Education (PGCE) Graduate Diplomas Graduate Certificates	8 Honours Bachelor Degree Higher Diploma	10 Bachelor's Degrees with Honours Professional Development Awards Graduate Diploma Graduate Certificates	6 Bachelor's Degrees with Honours Bachelor's Degrees Professional Graduate Certificate in Education (PGCE) Graduate Diplomas Graduate Certificates
Specialised education and training	5 NVQ Level 4 Higher National Diplomas (HND) Higher National Certificates (HNC) Vocational Qualifications Level 5	5 Foundation Degrees Diplomas of Higher Education (DipHE) Higher National Diplomas (HND)	7 Ordinary Bachelor Degree	9 Bachelor's/Ordinary Degrees Professional Development Awards SVQ Level 4 Graduate Diplomas Graduate Certificates	5 Foundation Degrees Diplomas of Higher Education (DipHE) Higher National Diplomas (HND)
Qualified/Skilled worker Entry to higher education Completion of secondary education	4 Vocational Qualifications Level 4	4 Higher National Certificates (HNC) Certificates of Higher Education (CertHE)	6 Advanced Certificate Higher Certificate	8 Higher National Diplomas (HND) SVQ Level 4 Professional Development Awards Diplomas of Higher Education (DipHE)	4 Higher National Certificates (HNC) Certificates of Higher Education (CertHE)
Progression to skilled employment Continuation of secondary education	3 NVQ Level 3 Vocational Qualifications Level 3 GCSE AS and A Level Advanced Diplomas	3 NVQ Level 3 Vocational Qualifications Level 3 GCSE AS and A Level Welsh Baccalaureate Qualification Advanced	5 Level 5 Certificate Leaving Certificate	7 Professional Development Awards Higher National Certificates (HNC) Certificates of Higher Education (CertHE) SVQ Level 3 Advanced Highers	6 Higher National Certificates (HNC) Certificates of Higher Education (CertHE)
Secondary education initial entry into employment or further education	2 NVQ Level 2 Vocational Qualifications Level 2 GCSEs at grade A* - C ESOL skills for life Higher Diplomas Functional Skills Level 2 (English, mathematics & ICT)	2 NVQ Level 2 Vocational Qualifications Level 2 GCSEs at grade A* - C Welsh Baccalaureate Qualification Intermediate GCSEs grade A* - C	4 Level 4 Certificate Leaving Certificate	5 Intermediate 2 Credit Standard Grade SVQ 2 National Progression Awards National Certificates	5 Intermediate 2 Credit Standard Grade SVQ 2 National Progression Awards National Certificates
Entry Level	1 NVQ Level 1 Vocational Qualifications Level 1 GCSEs at grade D - G ESOL skills for life Foundation Diplomas Functional Skills Level 1 (English, mathematics & ICT)	1 NVQ Level 1 Vocational Qualifications Level 1 GCSEs at grade D-G Welsh Baccalaureate Qualification Foundation	3 Level 3 Certificate Junior Certificate	4 Intermediate 1 General Standard Grade Scottish Vocational Qualifications (SVQ) 1 National Progression Awards National Certificates	4 Intermediate 1 General Standard Grade Scottish Vocational Qualifications (SVQ) 1 National Progression Awards National Certificates
Entry Level	Entry Level Certificates (sub levels 1 - 3) ESOL skills for life Functional Skills Entry Level (English, mathematics & ICT)	Entry Level Certificate (sub levels 1 - 3)	2 Level 2 Certificate	3 Access 3 Foundation Standard Grades National Progression Awards National Certificates	3 Access 3 Foundation Standard Grades National Progression Awards National Certificates
Entry Level			1 Level 1 Certificate	2 Access 2 National Progression Awards National Certificates	2 Access 2 National Progression Awards National Certificates
Qualifications can be taken at any age in order to continue or return to training				1 Access 1	1 Access 1



図-2 英国の資格比較表

出典：http://www.eal.org.uk

さらに、付け加えるなら、日本では、例えば高等学校教育は、それが通学制であれ通信制であれ、高等学校という学校でのみで提供され、また、学士、修士、博士といった学位は大学（大学院）という学校のみで取得可能

であるが、英国では同じ資格が異なった教育機関で取得可能である。たとえば、Aレベルの資格は、総合制中等学校やグラマースクールあるいはパブリックスクールといった「学校 School」でもプログラムが提供されているが、2年制の「シックス・フォーム・カレッジ Sixth form college」や「継続・高等教育カレッジ Further and higher education college」でも提供されている。同様に学位課程も、のちに説明するが、必ずしも日本のように「大学 University」だけが提供しているわけではない。このように同じ資格が多様な教育機関で提供されているのは、「資格枠組み」が存在し、学習成果が明確になっているからである。

2. 英国の高等教育制度

義務教育後、つまり16歳以降の教育を継続教育と呼んでいる。「学位 Academic Degree」を除く様々な資格取得のためのプログラムが、主に「継続教育カレッジ Further education college」と呼ばれる教育機関で提供されている。ただし、日本の短期大学士、アメリカの準学士に相当する2年間の高等教育課程である「基礎学位 Foundation Degree」を提供しているカレッジも存在する。

他方、高等教育は18歳以降（スコットランドでは17歳以降）の教育課程で、大きく「学士課程 Undergraduate Course」と「大学院課程 Postgraduate Course」に分かれ、さらに大学院課程には、コースワークのみで修了できる「授業コース Taught course」と学位論文が必要な「研究コース Research course」とがある。

義務教育後の継続教育と高等教育は、当然、資格枠組みを通じて両者の関係は明確になっている（図-3）。今回取り上げる、アーティキュレーションの問題は、主に、この二つの教育システムと海外の提携校との間で生じている。

さらに、ここで強調すべきことは、英国では自国の学位の価値を極めて重視していることである。たとえ国際的に評価の高い海外の大学が英国内にキャンパスを開設し、学位プログラムを提供しても、英国の大学として認可され、学位授与権を認められないと、「英国の大学」の授与する学位とは認められない。そのため、高等教育機関が提供する教育プログラムの質と学位の水準を維持し、保証するための様々な仕組みが整備されている。

たとえば、英国の大学に独特の「外部試験官 External Examiner」制度がある。周知のように、12世紀にオックスフォードとケンブリッジに大学が誕生した。その後、スコットランドには、セントアンドリュースやエジンバラにも大学が誕生したが、イングランドでは数百年経った1832年によりやく3番目の大学が誕生した。それがダラム大学である。ダラム大学を設置するにあたって、教員は先行するオックスフォード大学とケンブリッジ大学から招聘された。そのため、カレッジ制度など教育の仕組みのほとんどが、両大学のものを踏襲している。新設のダラム大学は、その学位が両大学と同じ水準であることを示すために、オックスフォードから試験官を招いた。これが今日まで続く外部試験官制度である。

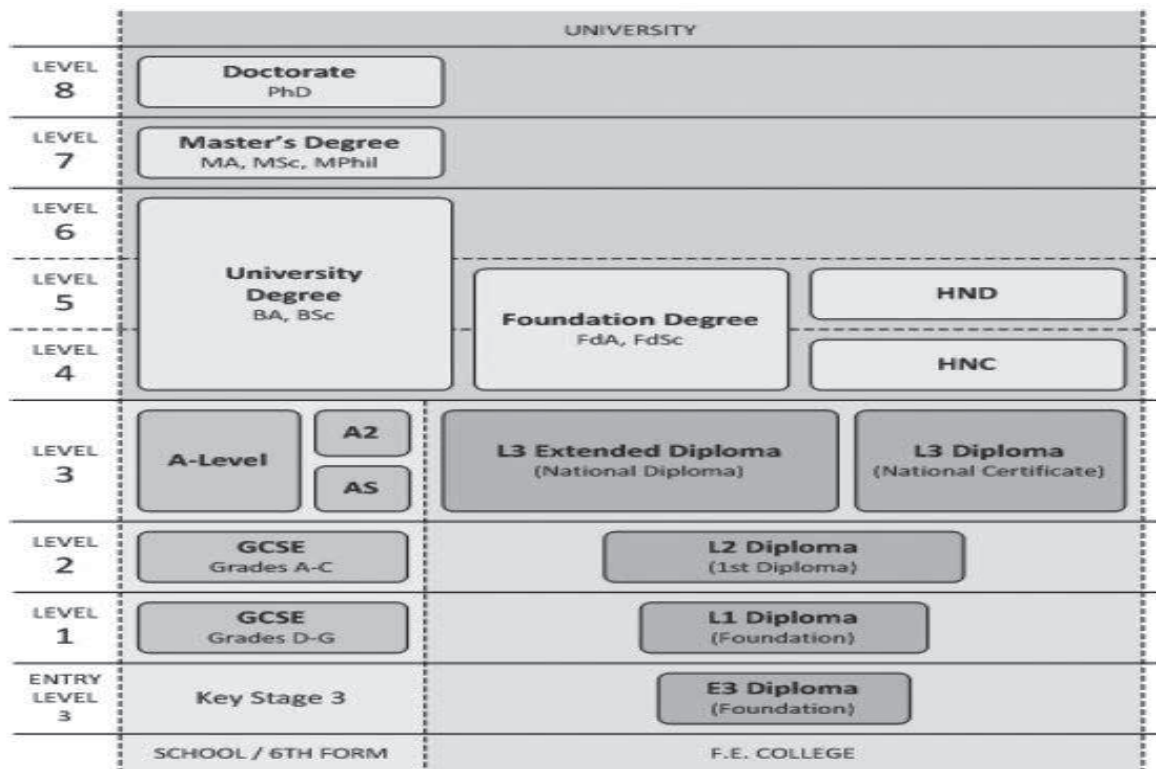


図-3 継続教育・高等教育資格枠組み

出典：Accredited Qualifications

<http://www.accreditedqualifications.org.uk/framework.jpg>

その後 20 世紀に入り、大学が増加するにつれて、外部試験官制度に加えて資格枠組みや分野別参照基準 (Subject Benchmark Statement)、そして高等教育質保証機関 (Quality Assurance Agency) による第三者評価制度が順次整備されていった。

このように、英国では新たに設置された大学の質保証には、すでに学位授与権を有する大学（高等教育機関）が積極的に関与し、大学は異なっても英国の学位としての同等性の確保に努めている。

この伝統は、現在も尊重されており、大学設置認可の制度に引きつながっている¹。

まず、日本の短期大学士や米国の準学士 (Associate degree) に相当する「基礎学位 Foundation degree」を自前で授与するためには、義務教育後の 2 年間にわたる教育や訓練を要する資格枠組みで「レベル 5」に相当する教育を、過去 4 年以上継続して提供していることが求められる。また、「授業コース」を通じて学士や修士の学位を授与するためには、学位授与権を有している高等教育機関（その多くは大学（「ホスト大学」））と連携し、4 年以上にわたって継続して、そのレベルの教育プログラムを提供することが必要である。最後に博士を授与するためには、博士の学位授与権を有する大学と連携して少なくとも 30 名以上の博士学生を研究指導した実績が不可欠である。特に、学士以上の学位授与に関しては、その学位授与権を有する大学が、申請機関の学位プログラムの質保証に責任を持ち（これを「批准 validation」という。）、また授与される学位も、申請大学ではなく、ホスト

大学の名において授与される。

しかし、一旦学位授与権が認められると、公的補助を受けている高等教育機関にあっては、その学位授与権は、よほどの問題を起こさない限り永久に有効である。そして、我が国と異なり、学位授与権を獲得すれば、それ以降は、機関独自の判断として学位プログラムの新設、改廃が可能である。さらに、これまで述べたように、以降は自らが「ホスト大学」として他の高等教育機関の授与する学位の代理人を務め、その水準を保証する仕組みとなっている。なお、「大学」という名称は、学位授与権を有する高等教育機関のうち学生数が、以前は4,000名以上でないと使用できなかったが、最近の改正により1,000名以上であれば認められることとなった。

現在、政府によって英国の高等教育機関として学位授与を認められている機関(“Recognised bodies”という)は、およそ160機関、独自の学位授与権をまだ有していない高等教育機関(“Listed bodies”)は、現在およそ700機関ある²。

3. 高等教育機関間のアーティキュレーション

英国の高等教育におけるアーティキュレーションには複数のタイプがある。

一つは、個人レベルの仕組みで、以下のような単位認定の仕組みがある。

(1) 修得単位認定制度 Credit Accumulation and Transfer Scheme (CATS)

英国の1単位(1 CAT credit)は、10時間の学習が前提となっている。他方、欧州単位累積互換単位制度では(ECTS)、1単位には25~30時間の学習が必要とされる。編入先の大学で単位を認定されるためには、10単位以上のモジュールで、モジュールについての詳細な情報、特に成績評価(アセスメント)の情報を学生が大学に提供することが求められる。たとえば、Oxford Brookes 大学では、卒業に必要な180単位(ECTS)のうち120単位まで認定される。

(2) 既学習認定制度 Assessment of Prior Learning (APL)

多様な機関でのこれまでの学習や訓練を、大学の単位として認定する仕組みであり、放送大学 Open University、企業内訓練、特定の専門職資格 (Association of Chartered Certified Accountants, English Nursing Board など) を取得するための学習経験を単位として認定する仕組みである。

(3) 経験学習認定制度 Assessment of Prior Experiential Learning (APEL)

これまでの生活、労働、経験、非公式な学習など、非定型的(non-formal learning)な学習を通じて得られた知識や技能の価値を、入学後大学が認定する仕組みである。大学進学には、大学ごとに出願条件が定められている。英国では、たとえば、3科目のAレベル試験で、どの段階の成績を修めなければならないかが指定される。しかし、社会人などで、Aレベル試験を受験していない場合は、代わりに、このAPEL制度を活用して出願できる。そのために、志願者は、大学が指定する出願要件と同等の知識と技能を有していることを示す必要がある。この場合、志願者は大学による知識と技能の修得の査定(アセスメント)をインタビューや書類審査によって受けなければならない。

生活における経験の例	その経験から得た学習と技能	現在の役割にこれまでの学習を活用している証拠	出願要件との適合性	今後とるべき活動
○パブでの仕事（忙しい職場での管理経験）	・交渉能力（コミュニケーション応力、計画、優先順位付け、チームワーク） ・知識（法律、アルコールの影響、対立の対処法）			

図-4 査定のために提出する書類例

出典：SCQF(2010), *Facilitating the recognition of prior learning toolkit*.

いずれも、資格枠組み制度が存在し、それぞれの資格段階における習得すべき知識や技能が明確になっているからこそ可能な仕組みである。

次に、教育機関間でのアーティキュレーションの仕組みは、「パートナーシップ」モデルと呼ばれるもので、学位授与権を有する大学と、地域の主に継続教育機関が提携して、高等教育の学位プログラム（基礎学位あるいは、学士）を提供するもので、大学に寄宿することなく、地元の継続教育機関で高等教育を受けることが可能となる。このパートナーシップ・モデルには、次のような3つの仕組みがある。いずれの場合も、学位授与権を有する大学（ホスト大学）の学位が授与され、また、大学のサービスもホスト大学の学生と同じサービスが保証され、学生自治会のメンバーでもある。

(1) 上乘せプログラム方式 Top-up programme

この仕組みは、日本における短期大学や高等専門学校からの編入に最も近い仕組みである。しかし、大きく異なるのは、提携校からの3年次編入生向けのコース(Top-up)を特別に設定していることである。1年次、2年次は地元の提携校で学び、学生は1年間だけ本校(ホスト大学)で学ぶだけで学士が取得できるため、3年間大学で学ぶよりも少ないコストで学位が取得できる。

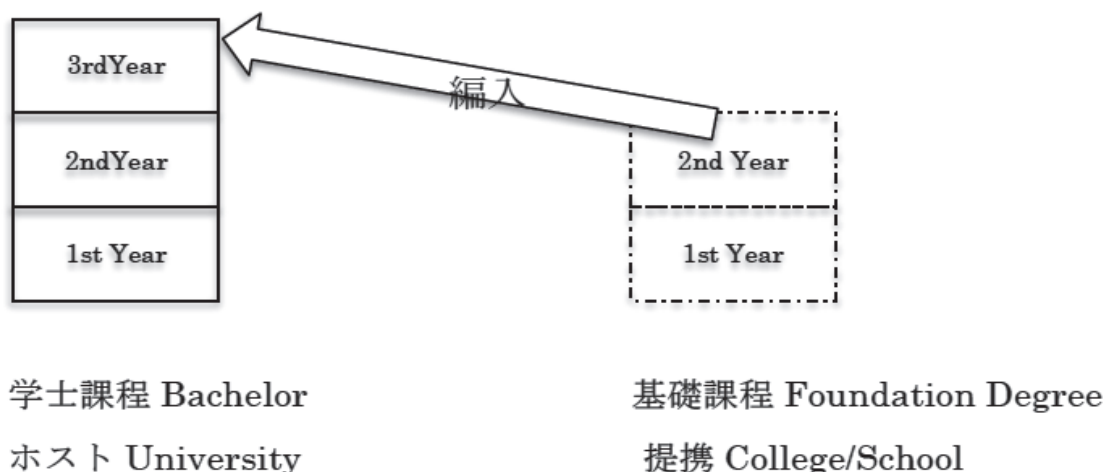


図-5 上乘せプログラム方式 Top-up programme

出典：著者作成

(2) 特権行使権付与方式 Franchise

この方式は、ファーストフードチェーンやコンビニエンスストアチェーンのように、ホスト大学と同じ教育課程を提供する権利を提携校に授与する方式で、教育は提携教育機関が行い、学位審査はホスト大学が行う方式である。「3+0」方式とも言われる。というのも、上乘せプログラム方式と異なり、本校で履修することなく、本校の学位を取得できるからである。

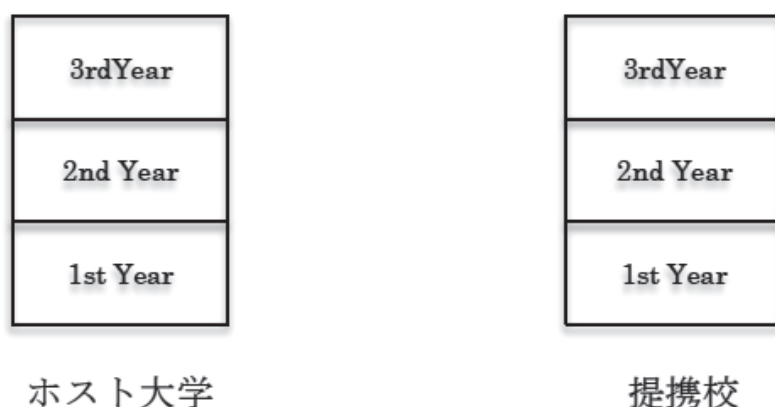


図-6 特権行使権方式 Franchise

出典：著者作成

(3) 教育課程批准方式 Validation

この仕組みは、特権行使権付与方式と異なり、教育課程は提携校が独自に編成し、その教育課程を提携校の教員が3年間提携校で教授し、学位審査も行う。しかし、その教育課程や学位審査の質や水準については、ホスト大学が自大学の質と水準と同等であるかどうかの評価を行い、教育課程を同等であると批准(Validate)することによって、教育の質を保証する仕組みである。これは、先に説明したように、一旦学位授与権が認められれば、以降は自らの判断で学位プログラムの新設や改廃を自由に実施できることによる。表現を変えれば、学位授与権を認められた高等教育機関は、自らの学位プログラムのみならず、他機関のいわば学位プログラム「設置審査」権を有していることに他ならない。もちろん、その審査が妥当なものであるかどうかは、QAAが実施する大学評価(Quality Review)において厳格に評価されることとなっている。

3年間/3年目の質保証

(ホスト大学＝認証機関)



ホスト大学

提携校

図-7 教育課程批准方式 Validation

出典：著者作成

いずれの方式も、学位授与権を有する本校（ホスト大学）、提携教育機関双方にメリットがある。まず、双方にとって、学生確保のメリットがある。さらに、提携教育機関にとっては極めて大きなメリットがある。というのも、先に学位授与権の認可制度について説明したように、我が国と異なり英国では教育実績が重視されている。この提携の仕組みを通じて、提携教育機関は本校（ホスト大学）の監督下で4年以上にわたって学士プログラムを提供することによって、自らが学位授与権を申請する条件が整うからである。しかし、ホスト本校にとっては、それは競争相手が増えることを意味する。そこで、提携関係を結ぶ際には、本校が提供している学位プログラムと重複する分野を提供しないことを確認している。（参考資料1、参考資料2）

今回訪問した2大学のうち、プリマス大学の提携校にはロンドン地区の機関もあるが、主に大学が位置するイングランド南西部の教育機関との提携に重点を置いている。また、これらの教育機関間の取り決め

は、英国内にとどまらず、海外の教育機関との間でも盛んに行われ、英国の「留学生」獲得の大きな武器となっている。そのため、今回訪問したもう一方の大学であるロンドン市内にあるミドルセックス大学は、海外教育機関との提携に重点を置いている。

3. まとめと我が国への示唆

英国のアーティキュレーションの取り組みの特色をまとめると次のようになる。

- (1) 各大学は自大学の知名度を高め、また収入を増加させるために、戦略的に国内外において上記のような各種の提携を積極的に推進している。
- (2) QAAの大学評価 (Quality Review) の際に、海外も含めて提携校における学位 (教育) の質保証の妥当性についても確認が行われる。
- (3) 我が国の「構想」に基づく設置審査と大きく異なり、「実績」に基づいて慎重にかつ厳格に学位授与権の審査と認可が行われるため、一旦付与された学位授与権は、他の教育機関のプログラムの妥当性を評価できるほど、絶大な威力を発揮することとなる。
- (4) しかし、提携教育機関は、いずれ学位授与権を得て独立する。それは、競争相手が増加することになるので、自らの優位性を維持するために、授与する「学位」の信頼性と威信の確保を各大学とも非常に重視している。

最後に我が国への示唆を2点記して小論を閉じることとする。

一つは、高等教育における学生の流動性を高め、また社会人の学び直しを推進するためには、英国（及び欧州各国）のように、多様な学習のルートで得た学習成果（知識・技能）を比較可能とする資格枠組みを構築する必要がある。

二つ目は、我が国の大学教育の質と学位の水準に対する国際的通用性と信頼を高めるためには、現行の構想に基づく設置審査に代えて、英国のような実績を評価する仕組みの工夫が必要ではないか、ということである。毎年文部科学省から公表される設置計画履行状況等調査によれば、年々問題を指摘される事例が増えている点から見ても、設置審査の在り方を根本的に見直す時期に来ているのではないだろうか。

<訪問調査先>

University of Plymouth、Middlesex University

<参考文献>

- HELP CETL (2009), *HE in FE culture and experience: a partnership perspective*. University of Plymouth.
- Souto-Otero, Manuel (2013), *Review of credit accumulation and transfer policy and practice in UK higher education*. Higher Education Academy.
- University of Plymouth Colleges Faculty (2010), *Pioneer in partnership: The enterprise university*.

¹ Department for Business Innovation & Skills (2004), Applications for the grant of taught degree awarding powers, research degree awarding powers and university title: Guidance for applicant organisations in England and Wales.

² 英国政府 <https://www.gov.uk/check-a-university-is-officially-recognised/recognised-bodies>

Information to assist enquiries from potential Plymouth University Collaborative Delivery Partners

Collaborative delivery is defined as working with the University to design and deliver higher education opportunities

The initial enquiry template below has been designed to assist potential Collaborative Delivery Partners and the University to identify institutional congruence and provides an outline of the type of evidence the University would use to assess and prioritise potential partnership development. When contacting the University about a potential collaborative delivery partnership it would be helpful to outline a narrative and supporting documentation indicating:

1. How your current Higher Education (HE) activity / provision relates to the criteria outlined in the enquiry template
2. How your future HE aspirations relates to this profile

If you feel that there is not a complete match with the criteria - please indicate plans and timescales over which you would anticipate a closer match being achieved.

Threshold criteria	Evidence that potential partner meets the threshold criteria	Suggested supporting documentation
Track record of successful HE provision	- Has been undertaking HE for more than 5 years and can normally evidence: - Successful recruitment, student success and employability - Excellent quality reviews - Stable and high quality HE delivery and support staff profile - Support for Research and Scholar Activity and HE focused staff development	Integrated Quality Enhancement Review (IQER), Higher Education Review (HER); reports and action plans from these engagements (UK partners)
Scale of operation	- HE operates at a scale to be financially viable for the institution in both short term and offers confidence regarding long term sustainability - Can demonstrate a resource base and infrastructure relevant to existing / planned HE delivery	College / Institution HE plans/Annual reviews (or equivalent). Evidence relating to staff research and scholarly activity profiles/publications
Strategic fit with Plymouth University	- Offers HE awards that fit the subject profile of Plymouth University [PU] and potentially offer the prospect of student progression at level 6 (final undergraduate year of study) - Offers HE awards that complement the PU HE portfolio / regional reach, that are not delivered at Plymouth - Is not seeking to deliver awards in competition to PU [considering programme profile and geographic location] - Is not offering similar awards to other existing PU partners [considering programme profile and geographic location] - Has overlapping research and/or business development interests	Institutional Strategy Structure diagram/operational detail Annual Report Current prospectus
Operational fit with Plymouth University	- Can demonstrate that HE is a core part of their institutional strategy - Has an HE strategy consistent with that of PU - Has experience of working in partnership with an HEI in the collaborative design and delivery of programmes - Can demonstrate both staffing levels and experience in successfully meeting the demands of HE operation: - Programme design, approval and updating - Student administration including enrolment, assessment and academic processes - Programme administration including quality monitoring [internal and external] - Reporting of data [internal and external]	Institutional strategy Higher Education strategy

Potential UK Collaborative Delivery Partners; please complete the template and contact Mark Stone, Head of UK Partnerships - email m.stone-2@plymouth.ac.uk
 Potential international Collaborative Delivery Partners; please complete the template and contact Peter Ingram, Head of International Partnerships - email peter.ingram@plymouth.ac.uk

参考資料2

Information to assist enquiries from potential Plymouth University Progression Partners

A progression partner is defined as an institution with an agreement with the University that facilitates the planned entry or progression of students to Plymouth University

The initial enquiry template below has been designed to assist potential Progression Partners and the University to identify institutional congruence and provides an outline of the type of evidence the University would use to assess and prioritise potential partnership development. When contacting the University about a potential progression partnership it would be helpful to outline a narrative and supporting documentation indicating:

1. How your current Higher Education (HE) activity / provision relates to the criteria outlined in the enquiry template
2. How your future HE aspirations relates to this profile

If you feel that there is not a complete match with the criteria - please indicate plans and timescales over which you would anticipate a closer match being achieved.

Threshold criteria	Evidence that potential partner meets the threshold criteria	Suggested supporting documentation
Track record of successful educational provision	- Has been delivering educational awards for more than 5 years and can normally evidence: - Successful recruitment, and student success - Excellent quality reviews - Stable and high quality teaching and support staff profile - Support for Research / Scholar Activity and staff development	Quality Reviews / Inspection reports Institutional strategic plans, annual reviews (or equivalent). Evidence relating to staff research and scholarly activity profiles/publications
Scale of operation	- Operates at a scale to be financially viable for the institution in both short term and offers confidence regarding long term sustainability - Can demonstrate a resource base and infrastructure relevant to existing / planned delivery	Institutional Strategy Structure diagram/operational detail Annual Report
Strategic fit with Plymouth University	- Offers awards that fit the subject profile of Plymouth University [PU] and offer the prospect of student progression at levels 4 – 8: - Level 0 - programmes that support access / entry to higher education - Level 4 - first undergraduate year of study - Level 5 - second undergraduate year of study - Level 6 - final undergraduate year of study - Level 7 - masters level study - Level 8 - doctoral level study	Current prospectus
Operational fit with Plymouth University	Core information needed from an organisation seeking an agreement with the University to give their students access to Plymouth awards: - Name and contact details of the institution seeking an agreement - Does the institution seeking the agreement have any existing or past links with PU? - Type of institution - Details of the NARIC recognition of the institution and information on translation of levels of awards across international boundaries [for international partnerships]: - Subject areas / award titles and level of awards from which progression / articulation is sought - Subject areas / award titles and level of awards at PU to which progression / articulation is proposed - Estimated number of students that would be interested in / might qualify to study at Plymouth - Proposed date on which first students will articulate to Plymouth - In what proportion are these students UK/EU and or international? - Grade profile of the relevant students - IELTS [International English Language Testing System] score profile [for international students]	The rationale for seeking an articulation agreement with PU, as opposed to other alternatives School, College, University et al By subject areas / award titles and by level/entry point: 0, 4, 5, 6, 7, 8 A Level or other qualification/s

Potential UK Progression Partners; please complete the template and contact Mark Stone , Head of UK Partnerships - email m.stone-2@plymouth.ac.uk

Potential international Progression Partners; please complete the template and contact Peter Ingram, Head of International Partnerships - email peter.ingram@plymouth.ac.uk

第4章 海外留学の履修科目と学修経験のアーティキュレーション —日本の大学における質的調査から—

野崎 与志子

1. はじめに

高等教育の規模の拡大と就学者数の増大は世界的な潮流である。日本では18歳人口の減少やその他の要因のため、必ずしも高等教育の規模が拡大しているわけではないが、グローバルには高等教育で学ぶ学生数は飛躍的に増大している¹。更に、学生数（即ち、就学者数）が急激に伸びているだけでなく、国境を超えて移動する学生を含め、学生の大学間移動（student mobility、スチューデント・モビリティ）が激増している。従って、学生の国内外の高等教育機関への留学とその際の学修（特に、取得単位）をどのように学位授与要件に反映させるかは、グローバル化の進む高等教育における質保証に深く関わる重要な問題と考えられる²。

2. 本稿における研究の必要性及び目的

日本の場合、国内における学生の大学間移動は極めて少ない。従って、学生の大学間移動を考える際に一番差し迫った問題は、学生の海外留学とそこでの履修科目の取り扱いという事柄になるだろう。ちなみに、複数の大学間で単位互換制度を導入し、学生が相互に科目履修ができるような大学間連携を行う場合、類似の科目間に内容や水準の同等性がある必要がある。基本的には、大学相互の科目間のアーティキュレーション（articulation）が必要である。

アーティキュレーションは、日本語では「調整」「連結」あるいは「接合」といった訳語が可能である。どのような訳語を用いるにせよ、概念的には、国内の大学間や海外の大学との連携・単位互換においては科目間（あるいは、カリキュラム）のアーティキュレーション問題に対処することが不可欠である。従って、「経験的（empirical）」なデータを使いながら問題を考察してみることの必要性は大きい。しかしながら、留学における履修単位の取り扱いという問題について、日本の大学における実践を調査した研究は少ない。

本稿の目的は、国際留学に力点を置く日本の大学の事例を基に、海外留学と履修科目の単位の取り扱いに係る問題について考察することである³。文献による国際基督教大学（ICU）と国際教養大学（AIU）の事例を考察した上で、本研究で質的調査（qualitative research）を行ったY大学の事例を取り上げて、「単位互換」のシステムを明らかにする。更に、学生の視点から見た海外留学経験について、X大学とY大学で行った学生インタビューのデータを基に、派遣先の地域別に傾向を分析する。データは、X大学とY大学において行った文書収集と教職員及び学生のエスノグラフィック・インタビューによって集められたものである⁴。

3. データ収集の概要

本研究は方法論的には、質的調査方法を用いてデータ収集を行った。2014年春から秋にかけてX大学とY大学を訪問した。両大学は国際教育における実績のある大学で、海外留学に多くの生徒を毎年送り出していることで著名である⁵。訪問調査の事前準備ではウェブサイトの情報にアクセスし、現地では大学の文書として、便覧や学生向けのハンドブックなどで、日本語のものと、英語のものと両方を収集した。同時に、X大学では教職員3人と学生4人、Y大学では教職員2人と学生6人をインタビューした。インタビューは基本的には個別で行った。「半構造化されたインタビュー」の手法を用いた。即ち、質問項目は念頭に置きつつも、一問一答形式で会話を進めるのではなく、会話の文脈の中で参加者が自由にオープン・エンドの会話を進めて行くという形態で行った。インタビュー時間としては、1人につき30～60分行き、音声録音した。録音したもの全てを起こし分析を行った⁶。

4. 留学と履修科目単位の認定

鈴木&村中（2014、137-141頁）は、国際基督教大学（ICU）とカリフォルニア大学システム（University of California System、UCシステム）に属する10大学との単位互換制度、及び国際教養大学（AIU）の留学制度と単位互換制度を紹介している。

鈴木&村中の著書に基づき、まず、ICUとUCシステムの単位互換制度について、簡単に述べたい⁷。ICUとUCシステムの単位互換制度に基づき、ICUの学生はUCシステムの大学への留学時に「履修した科目のうち30単位までをICUに持ち帰り...卒業に必要な履修単位（136単位）の中に参入できる」（138頁）。この制度を維持するために、UCシステムは「ICU内にUC東京スタディセンターを設置し、フルタイムのUC教員がディレクターとして常駐している」（138-139頁）。UC東京スタディセンターのディレクターの重要な仕事の一つは、「日本の提携校との間で単位互換を行う科目の内容や水準について、同一あるいは類似のもの」（139頁）かどうかの認定判断をすることである。つまり、科目間の読み替えシステムを構築し維持していくことで、具体的には、科目間の「読み替え表」（140頁）の作成と更新ということである⁸。

ICUの学生はUCシステム内の大学へ留学する際には、「読み替え表」を参照して留学先の科目を履修し、留学を終えて復学後に、履修した科目をICU科目として読み替えてもらうことになる⁹。鈴木&村中（2014）は、ICUとUCシステムの単位互換制が機能するためには3つの必要条件があるとしている。第1に、双方のカリキュラムが「科目番号制（course numbering system、コース・ナンバリング・システム）によって体系性と順次性」（141頁）を持っていること、第2に、「各科目の内容と水準を示したシラバスが交換」（141頁）されていること、第3に、「実際に受講した学生に対するアンケート調査」（141頁）によって実質的に互換の妥当性が確認されていること、の3つである。

筆者は、ICUとUCシステムの単位互換制度は、非常に整った形で運営されている国際的な大学システム間の単位互換制度であると考え。また、鈴木&村中（2014）は、ICUが全体として様々な海外大学とどのよう

なシステムで単位互換（あるいは、単位転入）を行っているかは触れていないが、ICUとUCシステムの単位互換制度は全体の制度の「基準点（reference point）」のような機能を果たしており、全体としての留学における履修科目の単位認定システムの妥当性（及び、留学における学修経験の質）を保証するのに役立っている可能性があると考ええる。

しかし、ICUとUCシステムの単位互換制度は、相手校（あるいは、相手大学システム）の出先部署が自校（あるいは近郊）にあり、担当教員が常駐し科目間のアーティキュレーションを行っているという形態をとっており、ベスト・モデルかもしれないが、日本の大学としてはまれにみるシステムなのではないだろうか、という疑問がわく。更に、ICUとUCシステムの単位互換制度をモデルとした制度を、個々の大学が取り入れて、全ての相手校と構築し機能させるためには、人的・財政的資源をかなり充実させる必要があるのではないだろうか。

では、次に、国際教養大学（AIU）の留学制度と単位互換制度を見てみよう。鈴木&村中（2014）によると、AIUでは、学生が「1年間の海外留学をして履修単位を持ち帰ることを必修化」（141頁）している。持ち帰る事のできる履修単位は30単位までである。海外留学ができるためには、2つの条件を満たすことが求められている。1つ目は、留学前の「在学期間中のGPA...が2.5以上」（141頁）あること（GPAはGrade Point Average、成績の平均点）、2つ目は「TOEFLスコアが550点以上」（141頁）であることである。留学予定者は「留学前に全員が留学セミナー」（142頁）を履修する（留学セミナーは1単位である）。

留学先の大学で履修した科目の単位が、AIUの卒業単位として認められるためには次のような前提条件がある。第1に、「科目内容」が留学先の大学におけるものとAIUにおけるものではほぼ一致しており、また、「単位数」が一致していること（142頁）、第2に、科目番号制が双方に導入されていて、認定される科目が「同じレベル」（142頁）であると判断できること、第3に、「科目の開講されている分野」がAIUにおける開講分野と「類似」（142頁）であること、である。但し、留学先で履修した科目に相当する科目がAIUで開講されていない場合でも、その科目を「Abroad Courses」として履修上限内で「単位転入（credit transfer）」することができる。

以上の前提に基づき、学生は留学先で科目を履修するが、AIUに単位転入できるのは「A、B、C、D、F評価でC以上」（143頁）であることが必須である。それ以外の評価（例えば、可/不可のみの評価、即ちアメリカ合衆国では「Pass and Fail、P/F」）と呼ばれる評価でつけられる成績は単位転入できない。その他、「日本語で開講されている科目やオンラインの科目」（143頁）などは単位転入できないといった、幾つかの制約がある。

以上のようなシステムを機能させるために、AIUでは学生に対してきめ細かな事前指導が行われる。学生には単位転入の条件とそのプロセスの周知が図られる。学生は留学前に「スタディ・プランを作成」（143頁）し、そのプランをアドバイザーと確認し、教員アドバイザーと共にコースマッチングリスト（留学時の科目履修プラン）を作成する。その際、留学しても計画通りに行かない場合のために、予備のコースマッチングリストも作成する。単位が認められて転入されるためにはアドバイザーの承認が必要である。鈴木&村中（2014）はAIUの海

外留学における単位転入制度においても、「双方がカリキュラム上で科目番号制度」（145 頁）を持ち、「シラバスを交換し．．．科目の内容の詳細を比較検討」（145 頁）できることが重要であると指摘している。

筆者は、鈴木&村中（2014）の紹介するA I Uの事例から、日本の大学が海外の高等教育機関からの単位転入をどのように行いうかという問題についての、一つのモデルがイメージできると考える。それは、先述したI C Uが全体として持っている海外の大学での履修科目の単位の取り扱いシステムとも、ある程度重なるのではないかと推測されるが、コースマッチングリストを、それぞれの学生が自分の留学先のカリキュラムや科目を調べて作成するという点で異なる。また、相手校との「単位互換」がされているというよりも、相手校からの単位持ち込み（「単位転入」）がされているという形態といえる。また、A I Uにおける「単位転入」の妥当性は、I C UとU Cシステムの単位互換制度（相手校の常駐の教員によるチェックと双方の生徒へのアンケート）と全く同じようには担保されていないように思われる。

いずれにせよ、A I Uの事例の特徴は2つあるように思われる。第1は、学生が積極的にスタディ・プランやコースマッチングリストの作成を担い、準備段階からアドバイザーが単位承認のプロセスを指導するなど、留学プロセスに関する「カリキュラム」のようなものが形成され、かなりきめ細かい指導がなされているシステムである¹⁰。第2は、アメリカ合衆国の高等教育での実践をモデルにした科目番号制度の導入やシラバスの作成など、単位互換や単位転入に必要なツールを整備した上で機能しているシステムであることである¹¹。

この2つの特徴は、筆者が行った調査でのY大学の実践においても確認できるものであった。以下では、Y大学の留学に伴う実践を、単位互換制度などにフォーカスしながら、少し詳しく見てみることにしよう¹²。

5. Y大学での留学と単位互換の実践事例

Y大学は「国際相互理解」を基本理念の一つとして掲げており、国際化への取り組みは評判が高く、留学生の送り出し、受け入れに力を入れている大学である。しかし、海外留学は卒業要件ではない¹³。本研究では、Y大学への訪問調査を行い、文書の収集と教職員及び学生へのインタビューを行った。

まず、収集した文書から見てみよう。Y大学の『2014 学部履修ハンドブック』（以下、「『ハンドブック』」という）によると、海外で学ぶプログラムは大きく2つに分かれる¹⁴。1つは、「アクティブ・ラーニング」と呼ばれる「短期プログラム」において海外でのフィールド・ワークやインターンシップ等に参加することができる。「短期プログラム」では所定の単位（2～4単位）を取得することができる（『ハンドブック』、130-131 頁）。

もう1つは、「長期留学」という範疇に入るもので、海外の高等教育機関への留学という学修を伴うものとしては、「交換留学」（Y大学と学生交換協定を締結している大学への留学）、「共同学位プログラム」（Y大学の学生がY大学で2年間と派遣先大学で2年間の学修を行い、両大学での学位取得が可能なプログラム）、及び「個別合意に基づく留学」（学生自身が留学を希望する大学から直接受け入れ許可を得て、それを審査の上「留学」と認める制度）がある（『ハンドブック』、132-134、136-138 頁）。

本稿での研究課題は海外の高等教育機関との「単位互換」であるが、Y大学において「単位互換」が伴うのは、厳密には、海外の派遣先大学と学生交換が伴う「交換留学」である。Y大学は1年に70～80人位の交換留学生を海外に送っている。「共同学位プログラム」は、Y大学2年間及び派遣先大学2年間の学修によるプログラムであり、海外の派遣先大学での単位の取り扱いという問題が生じないと考えられる。「個別合意に基づく留学」は、単位の持ち込み（即ち、「単位転入」）が伴い、「単位認定等については「交換留学（海外）」と同じ」（『ハンドブック』、137頁）と規定されている¹⁵。

Y大学で海外交換留学に出願（申請）するためには以下の条件がある。1つは、1回生後半（第2セメスター）から3回生前半（第5セメスター）の学生であること、2つ目は、「当該セメスターGPA」が2.0以上であること¹⁶、（c）派遣先大学で主に英語開講科目を履修する場合は、TOEFLスコア500～600点であること（証明書が必要）、3つ目は、派遣先大学で主に「アジア太平洋言語」開講科目を履修する場合は、正規科目を受講できる語学力を有していること（証明書が必要な場合がある）、である¹⁷。

海外交換留学における申請から留学のプロセスを、1回生後半（第2セメスター）から3回生前半（第5セメスター）であることという条件は、留学という学修が準備から事後までの長期にわたることによる、条件であろう。Y大学における留学プロセスを1回生から4回生までの大学全体で表したものが<表1>である。申請者の交換留学内定が決まってから留学に出立するまでのステップを、春派遣と秋派遣を含めて、学生の個々の視点からまとめたものが<表2>である。4年間というリミットの中で留学という学修経験を成功させるのは、大学側にも学生側にもタイムラインに沿って物事を進めて行くためのかなりのエネルギー（あるいは、人的・財政的リソースと努力）が必要であると言えるだろう。

<表1> Y大学における海外交換留学における申請から留学まで

	1 セメスター	2 セメスター	3 セメスター	4 セメスター	5 セメスター	6 セメスター	7 セメスター	8 セメスター
1 回生		申請 ・選考	内定者ガイダンス (5回程度)	留学(1セメスター) 留学(2セメスター)				
2 回生			申請 ・選考	内定者ガイダンス (5回程度)	留学(1セメスター) 留学(2セメスター)			
3 回生				申請 ・選考	内定者ガイダンス (5回程度)	留学(1セメスター) 留学(2セメスター)		
4 回生					申請 ・選考	内定者ガイダンス (5回程度)	留学(1セメスター)	

（出典：Y大学の『2014-2015 留学・海外学習案内』から作成）

＜表 2＞Y大学における海外交換留学の内定後の流れ

春派遣	内定後の流れ	秋派遣
6月 ↓ 10月 ↓ 1月 ↓ 2～5月	Step 1：留学担当者から派遣先大学へ内定者をノミネート	12月 ↓ 3月 ↓ 5月 ↓ 8～9月
	Step 2：派遣先大学より、留学担当者宛に申請書類到着	
	Step 3：留学担当者より、内定者へ申請書類を渡す	
	Step 4：内定者が申請書類を記入し、留学担当者へ提出	
	Step 5：留学担当者より、派遣先大学へ申請書類送付	
	Step 6：派遣先大学にて選考実施	
	Step 7：派遣先大学の受入許可証が留学担当者へ到着	
	Step 8：留学担当者より内定者へ受入許可証を渡す	
	Step 9：内定者がビザ申請書準備を開始	
	Step 10：渡航準備	
	Step 11：留学へ	

(出典：Y大学の『2014-2015 留学・海外学習案内』から作成)

留学において履修した科目の単位認定に関して、Y大学では＜表 3＞のような規定がある。ここでの規定は、前節で言及したA I Uのシステムとよく似た点が多い。推測ではあるが、日本の大学における学生の海外留学時の履修科目の取り扱いは、A I UやY大学のような形で行われていることの方が多いのではないだろうか。

＜表 3＞Y大学における留学終了後の単位認定

● 留学先での単位は、在学中のすべての単位認定を含め 60 単位を上限として認定する。 ● 本学の開講科目と全く関連性の無いもの（体育・芸術）の単位認定は原則として行わない。 ● 現地での履修計画については、事前にアカデミック・オフィスへ報告する。 ● 留学先の正規課程において修得した科目は、本人からの申請に基づき、審査・認定を行う。 ● 単位認定の結果、本学設置科目に認定された場合、その科目は以後の履修対象とはならない。 ● 交換留学先で習得した成績評価は「T（認定）」とする。 ● 原則として、帰国後 1 ヶ月以内に単位認定申請を行うことが必要である。
--

(出典：Y大学の『2014-2015 留学・海外学習案内』から作成)

では、以上のように文書で表されているY大学の留学に伴うシステムの実際の様子（即ち、実践の状況）をもう少し具体的、詳しく知るために、インタビューのデータを基に、探求、補足、及び裏付けしてみたい¹⁸。教職員2人へのインタビュー・データを基に、単位互換をどのように行っているか、学生が海外留学で適切に授業を選択し単位を取得するためにどのような指導を行っているか、といった問題に関連する項目をまとめてみたのが、＜表4＞である。

＜表4＞ Y大学の留学と履修単位の取扱い（インタビューから）

(4.1) Y大学における「単位互換」はとは？ 「学生交換協定」等の協定を結んでいる教育機関（国内+国外）との間で、類似科目、類似概要/趣旨の科目の「単位互換」を認める。 - 海外との「交換」学生は、全体としては行く人数と来る人数のバランスはとれている。 - 別の大学（国内+国外）からの編入学に際しての「単位認定」制度がある。 - 国内は、2大学と協定を結び、単位互換が可能である。
(4.2) 留学準備教育は？ - 早い時期からの留学への動機付けをする（例えば、入学直後の短期海外体験プログラムを実施しており、現在150人ぐらいが参加する）。 - 年に何回かTOEFL講座を開いて、留学までに550点を達成させる。
(4.3) 留学前の「単位互換」についての指導は？ - 交換留学のガイダンス5～6回のうち、2回目に単位認定について説明する。 - 科目番号制（100～400番）があり、アメリカの大学等との科目の対応はし易い。 - 派遣先の科目のシラバスは個々の学生がインターネットで調べて提出する（過去のシラバスの蓄積とかは、毎回変化するものでしていない）。 - 履修できそうなもの全てを含めた「単位認定見込確認書」を作成し、シラバスをつけて提出する（シラバス添付は必須ではない）。 - アカデミック・オフィス、及び留学アドバイザー（教員）が、申請書類に対する指導（シラバスのチェック等を含める）を行う。 - 先輩のヘルプ有り。 - 交換留学の場合は最終的には1対1の指導となる。 - 最終的に教学部長と教学副部長二人による審査を行う（教学副部長は教員）。
(4.4) 留学中の対応は？ - 単位認定見込確認書の提出あるいは変更を受け付ける。 - 夏休み中のインターンシップ、ボランティア活動を奨励している。 - 普通のインターンシップを単位に換算するシステム（＝事前授業と事後授業）は有るが、留学時の履修科目単位の互換としては適否の判断が必要である。

(4.5) 留学後は？

- 単位認定願（「単位認定見込確認書」＋実際のシラバス＋成績）（あらかじめ見込書で申請してあるもののみ認める）。
- Y大学の成績表に「T」として単位認定する。
- 交換留学の事後学習はない（報告書の作成、及び希望者による報告会/交流会のみ）。
- 他の大学よりも卒業までにかかる期間が長い（しかし、就職には響かない）。
- 学生の約半分は留学経験をもって卒業する（統計の取り方によって数字は異なる）。

(4.6) 単位認定に関して今まで困ったことは？

- 外国の大学でとった単位が本学で既習の単位と重なる場合。
- シラバスが手書きであった場合。
- 外国大学の場合、問い合わせは出来るが、返事が遅い場合がある。
- 科目がオファーされなかった場合。外国人は履修出来ない場合がある。
- 留学あるいは編入学ではなく、外国人学生の新規入学の場合、既習の単位を認めてほしいという要望がある（例えば、語学/日本語の単位）。

前節において「単位互換」と「単位転入」に関しては、概念的にやや異なることを上述したが、興味深いのは、インタビューにおけるY大学の留学担当教職員の見解では、協定校での履修単位を認定する場合を「単位互換」と位置づけている。担当者の言葉では、「協定を結んでいる教育機関との間での、うちの学生がとった単位は、うちのカリキュラムに多かれ少なかれ似たような科目で同じような趣旨であれば、それは互換単位を認めて行く」とのことであった。（Y大学では、その他に、他大学からの編入学の際の単位認定の仕組みがある。）

興味深いのは、担当者がインタビューにおいて、協定校との単位互換と編入時の単位認定を「二つの単位認定の仕組みで、それ以外には基本的にはない」と述べたことであった。というのは、文書上は「個別合意に基づく留学」における単位認定が可能であるが、おそらく、実際には、そのケースは少ないことを物語っていると推測されるからである¹⁹。

さて、Y大学における単位互換システムにおいても、A I Uのシステムと同様に、留学前にかなりきめ細かな指導（Y大学の担当者の言葉では「手厚い指導」）がされているのが特徴である。いわば、留学準備カリキュラムのようなものが構成されている。まず、交換留学内定者に対する5～6回のガイダンス・セッションを行い（＜表1＞参照）、その2回目では単位認定の説明をすることになっている。次に、学生が各自科目番号を参考にプラン（「単位認定見込確認書」（インタビューにおいて「単位認定見込確認書」と言及された書類は「単位認定見込書」＜資料1＞と同一のものである）含める。）を作り、自律的にインターネットを通してシラバスを収集し確認する。そのプロセスをアカデミック・オフィスのアドバイザー及び教員の留学アドバイザーが指導し、先輩の留学経験者も後輩をサポートする、といった過程がシステム化されている。最終的には「1対1の指導」（担当者の言葉）になるということである。

Y大学における「単位認定見込確認書」（＜資料1＞参照）は何枚も提出可能で、とれそうなものは全て提出して良く、追加することも可能である。作成に関しては、A I Uのケースと同様に、アメリカ合衆国型の科目番

号制度およびシラバスなどがツールとして有効であるようだ。「単位認定見込確認書」にはシラバスをつけて提出することを奨励している。Y大学では、留学中にも「単位認定見込確認書」の提出あるいは変更ができることになっている。

担当者によると、科目番号がある場合は単位認定しやすく、番号がない場合は科目名やシラバスの内容を見て、「これはうちだとどれぐらいだろうか」というように判断するとのことである。但し、科目番号とシラバスのみで判断するわけではない。担当者によると、単位認定に関しては「これまでの...個別で認めてきた積み上げの結果になっているもの[ママ]が目安としてある...この大学のこういう科目は今までに認めた事があるとかいうその蓄積はきっとある」とのことである。

留学後には、「単位認定願」（＜資料2＞参照）を提出する。（「単位認定見込確認書」と「単位認定願」は基本的には同じフォーマットである。）。単位認定がされるためには、別に留学派遣先大学からの「成績証明書」が必要である。また、「単位認定願」の提出にあたって、他の必要書類が提出されているかがチェックされる（例えば、セメスターごとの「交換留学報告書」、「単位認定見込確認書」（判定印のあるもの）、シラバス等）。単位の認定は、あらかじめ「単位認定見込確認書」で申請してあるもののみが、「T」として認められる。

Y大学では、交換留学の事後学習はないが、報告書を提出し、希望者による報告会/交流会のみが行われる。学生の半分は「海外経験」をもって卒業する（但し、統計の取り方によって数字は異なる）という実績を出しており、他の大学よりも卒業までにかかる期間が長くなるケースが多いが、大学としては「就職には響かない為問題ではないと考えている」（担当者の言葉）ということである。

Y大学での調査では、単位認定に関して今まで困ったケースについてインタビューすることができた。担当者いわく、単位互換をする際に「シラバスが手書きであった場合」があり、「海外の大学の場合、問い合わせは出来るが、返事が遅い場合」がある。留学中に学生が直面する問題としては、「科目が開講されなかった場合」及び「外国人は履修出来なかった場合」などがある。（また、本研究のテーマとは若干異なるが、留学あるいは編入学ではなく、外国人学生の新規入学の場合で、既修の単位を認めてほしいという要望がある。それは、例えば、語学/日本語の単位の初級のはずでに他の大学で修得済みという場合に、学生からの要望があるとのことであった²⁹⁾）。以上のようなY大学で蓄積された事例は、国際教育や留学プログラムに興味をもつ他の大学にも参考になると考えられる。

さて、Y大学の学生が、海外留学における履修科目の単位互換・単位認定において、実際にはどのように対処したのかは興味のあるところであるが、インタビューでは「単位認定の可能性のあるものは全部とりあえず申請しておいた」（Fさん）とか「科目履修プランは作ったが、最初にリストしたものと実際に履修したものは全くとっていいほど異なった」（Eさん）というように述べている。概ねのところ、単位互換システムは文書や教職員担当者が説明したように機能しているようである。学生の経験や声については次節で詳しく紹介する。学生の視点からは、「単位互換」に集約されてくる結果は、文化や制度の異なる海外における学修というプロセスの一部であるように思われる。

<資料1>

単位認定見込書/Tentative Credit Transfer Form

No.

提出:Date of submission 20 / /

- 1.判定には概要のみが記載された書類は不可です。シラバスを提出してください。
- 2.シラバスは単位認定見込書の科目順に並べて提出してください。
- 3.単位認定見込書に記載される読替え科目はあくまでも見込のため、審査の結果最終的に認定される科目が異なる場合があります。
- 4.単位認定の基本ルールの詳細は、ガイダンスの資料を参考にしてください。
1. Subject outline is not acceptable. You must submit the syllabus for credit accreditation.
2. Please submit each syllabus in the same order as on this tentative credit transfer form.
3. The results contained in this form are TENTATIVE results and may be subject to change.
4. Please refer to the guidance handout for the details of basic rules of credit transfer.

氏名/Name		学籍番号/Student ID	
所属学部		カリキュラム Curriculum	☐ 2011 ☐ 2006
派遣先大学名 Host Institution			
派遣国・地域 Country / Region			
派遣開始セメスター /Departure Semester	20 ☐ 春/Spring ☐ 秋/Fall	派遣期間/ Exchange Period	☐ 1セメスター/ 1 semester ☐ 1年/ 1 year

番号 No	科目コード Course Code	科目名 Course Title	単位 Credit	開講言語 Language of Instruction
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

オフィス受付印	教学部受付印

<資料2>

単位認定願/Credit Transfer Request Form

提出:Date of submission 20 / /

単位認定願以外の書類 (※提出済みの書類の□にチェックを入れてください)

- | | |
|--|--|
| ☐ 交換留学生報告書 1 セメスター目 | ☐ 交換留学に関わるアンケート |
| ☐ 交換留学生報告書 2 セメスター目 (1 年留学のみ) | ☐ 交換留学プレゼンテーション パワーポイント |
| ☐ 交換留学生帰国報告書 | ☐ 判定結果の出た単位認定見込確認書 |
| ☐ 留学終了届 | ☐ 単位認定希望科目の全シラバス |

(注 1) 単位認定には、単位を取得した大学の「成績証明書」が必要です。

(注 2) 単位認定希望科目と科目コードを成績証明書に記載されている順に下記の科目コード
及び単位認定希望科目リストの欄に記入してください。

(注 3) 単位認定希望科目リストに記載された科目順にシラバスを並べ、本単位認定願と共に提出してください。

氏名	学籍番号		
所属学部	カリキュラム	☐ 2011	☐ 2006
派遣先大学名			
派遣国・地域			
派遣開始セメスター	20 ☐ 春 ☐ 秋	派遣期間	☐ 1 セメスター ☐ 1 年
現住所			
自宅電話番号	携帯番号		
帰国後の予定	☐ 復学 ☐ 休学(1 セメスター) ☐ 休学(1 年) ☐ その他 Others()		

単位認定希望科目リスト

番号	科目コード	科目名	単位	開講言語
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

6. 留学経験に関する学生の声

さて、留学プログラムを体験した学生の視点から、留学経験をもう少し視野を広げて検討してみたい。教育をサービス産業という経済学的な枠組みから見れば、「学生」は教育プログラムという「商品」を購入する「消費者」であると考えられる²¹。

以下では、X大学とY大学の学生に行ったインタビュー調査から、留学先での学修に関する部分を整理してみたい²²。＜表5＞は学生の留学派遣先や履修科目内容について簡単にまとめたものである。＜表6＞は留学先ごとに学生のインタビューを箇条書きにまとめたものである。

＜表5＞学生の留学先と履修科目

学生 (性別)	大学	留学先国	留学先機関	履修科目／内容
A (女)	X大学	シンガポール	Business School, Nanyang Technological University	ビジネス関連科目、中国語
B (男)	X大学	フランス	Neoma Business School (元 Rouen Business School, RBS).	英語での授業、フランス語、留学生向けフランス語での授業
C (女)	X大学	シンガポール	School of Business & Arts and Social Science, National University of Singapore	国際関係、中国語、日本とシンガポールの関係史、マネジメント等
D (男)	X大学	リトアニア	Vytautas Magnus University	英語で開講されている科目。植民地主義、ポストコロニアル理論、ヨーロッパのケーススタディ
E (女)	Y大学	韓国	漢陽大学校	政治外交、国際関係、韓国語、英語での授業、韓国語での授業
F (女)	Y大学	台湾	淡江大学	国際関係、アジア経済、政治、アジアとアメリカの比較、台湾の領土、台中関係
G (女)	Y大学	ノルウェー	University of Bergen	文化人類学、都市文化人類学、グローバリゼーション、European History
H (女)	Y大学	リトアニア	Vilnius University	国際関係、オリエンタル・スタディーズ、Islam Between, International Modernity
I (女)	Y大学	アメリカ合衆国	University of Wisconsin-Oshkosh	政治学理論、アメリカン・ポリティックス、アメリカン・ヒストリー、ジェンダー
J (女)	Y大学	アメリカ合衆国	University of New Mexico	ビジネス関係、人的資源管理論、プロフェッショナル・セリング、ビジネス受けの実践講座

＜表6＞学生の留学先による傾向はあるか？

	学生 大学 (性別)	留学先国 留学派遣先機 関	留学先学修経験の感想・留学前及び留学後学修の感想
アジア圏	A X大学 (女)	シンガポール Nanyang Technological University	・ NTUの学生のレベルが高いのでびっくりした。 ・ 授業方法としては、グループワークが多かった。 ・ マーケティングの授業が楽しかった。 ・ 日本で経済のミクロ、マクロ、会計をとってから行ったので、NTUで経済学部4年の授業をとっても大丈夫だった。 ・ X大学で統計を英語で習っておいてよかった。 ・ X大学で積分を習ってから留学すればよかった。 ・ 異文化についても、X大学で欧米以外の文化を勉強しておく良かった（コンセプトとかは勉強したが、具体的事例は学ばなかった）。
	C X大学 (女)	シンガポール National University of Singapore	・ NUSの授業内容のレベルがX大学と比較するとかなり高かったので、授業について行くのは楽ではなかった。 ・ 日本とシンガポールの関係、特に、戦時中の日本占領下での歴史とかを学んでから行きたかった（高校でも大学でも学んでいないので）。 ・ 現地でも寮だったので、X大学での寮生活が役立った。
	E Y大学 (女)	韓国 漢陽大学校	・ 科目履修プランは作ったが、最初にリストしたものと実際に履修したものは全くと言っていいほど異なった。 ・ 1～2年は教養科目をY大学で履修して、3回生で留学して専門科目を履修し始めたため、留学前と留学中の履修科目のつながりはなかった。 ・ 国際関係（中東紛争）については学んでいったが、日韓関係については学ばずに行ったので、留学先で真剣に考えた。 ・ プレゼンテーションが主体の授業とかがあったが、Y大学でプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションになれていたため、困らなかった。 ・ 韓国語と英語の両方の力を伸ばすことができた。
	F Y大学 (女)	台湾 淡江大学	・ 他国と比べると比較的単位の取りやすい大学だったと思う。 ・ 評価は、エッセーや普通のテスト等、様々だった。 ・ 授業で発言をすごく求められることもなかった（Y大学の方が活発だった）。 ・ 教授との距離が近い大学だった。 ・ 国際関係を勉強してから留学したのはよかった。 ・ 英語での授業を受けてから留学したのも良かった。 ・ 政治経済の基礎知識をもう少し学んでから留学したほうが良かった。 ・ 日本について基本的な知識をみにつけてから留学した方が良かった。 ・ 単位認定の可能性のあるものは全部とりあえず申請しておいた。

ヨーロッパ圏	B X大学 (男)	フランス Neoma Business School	・ 統計学とか、人口学とかやってから留学したが、RBSでは、基礎をふまえた上での応用が高度であった。 ・ グループワークとか話術でつかむようなプレゼンかの授業を経験してから留学したのはよかった。
	D X大学 (男)	リトアニア Vytautas Magnus University	・ 植民地主義、ポストコロニアルとかを、理論的学問的なアプローチで、ヨーロッパのケーススタディとかで学べて、比較できる対象を学べてよかった。（日本ではあまりポストコロニアルとかやらないし、やっても、結局、日本の植民地のはなしで終わってしまう。 ・ 授業は難しかった（期待通り）。 ・ X大学では英語で学んでいるので、全体のレベルが止まってしまう部分がある。現地では、英語が普通なので、宿題とかも多かった。 ・ 理論的学問的なアプローチのベースから入って行くのが、新鮮だった。
	G Y大学 (女)	ノルウェー University of Bergen	・ 授業のレベルは高く、深く学べた。 ・ 普通の講義スタイルで、講義の後に、ティーチング・アシスタントによるセミナーのようなディスカッション・セッションがあった。 ・ 1科目がY大学の8単位に換算された。 ・ リーディングの量が多く、8時間のエッセー・テストとかがある。 ・ 教員のレクチャーだけではなく、文献を自分で読む必要があった。 ・ 最後の期末テストだけで成績が決まる。 ・ 留学前に、Y大学でリーディング・インテンシブのコースがあるとよかった。
	H Y大学 (女)	リトアニア Vilnius University	・ ヨーロッパの歴史をもっと勉強してから留学すればよかった。 ・ 留学前に専門の授業をたくさんとって行ったのは、基礎知識（特に、理論の基礎）があつてよかった。 ・ 授業はハードだった。 ・ ほとんどの授業が少人数クラスだったので、質問とか発言とかしやすかった。 ・ 学部によって授業レベルが異なり、国際関係政治学部はついていくのが大変だった。 ・ リーディング・リストがあり、授業の内容はリーディングを読んできてディスカッション。 ・ レポートとペーパーテストの両方があり、ペーパー試験は3時間でエッセーを5つ書く（持ち込み不可）。

北米	I Y大学 (女)	アメリカ合衆国 University of Wisconsin-Oshkosh	・ ネイティブの人のディスカッションになかなかついていけなかった。 ・ 授業の内容についていくだけでも大変だった。 ・ 英語でのグループワークとか、プロジェクトとかのスキルを磨いてから留学できたのはよかった。
	J Y大学 (女)	アメリカ合衆国 University of New Mexico	・ 英語でのグループワークとか経験してから留学してよかった。 ・ Y大学でもビジネスの授業はとっていたが、留学先で記憶が戻ってきたところがあり、興味がわいた。 ・ 授業の難易度は高かったが、教員が助けを求めるとよく応えてくれて、努力すればできた。 ・ ファイナル・レポート 15 頁という科目もあったが、毎日担当教官に会ってアドバイスを貰うことができた。

本節の分析にあたっては、本研究の調査に於いてX大学の担当教員とのインタビューの際、履修科目のアーティキュレーションの問題に関連して、「経験的に、派遣先の地域によって、学生の取得してくる成績に違いがあるように感じる」という言葉、いわば経験に基づく「地域傾向仮説」が語られた²³。以下では、この仮説をさしあたっての分析枠にして、留学先がアジア圏、ヨーロッパ圏、北米の場合に分けて検討してみたい²⁴。

6. 1 アジア圏への留学

まず、アジア圏に留学した生徒から見てみよう。履修科目授業の難易度について、アジアに留学した学生たち感想を拾ってみよう。

X大学のAさん(女性)は、シンガポールのNanyang Technological University (NTU)のビジネス学部留学した。経営学士課程(MB S)のプログラムで30単位取得した。経営学士課程の科目が24単位、それに加えて中国語を6単位取得した。Aさんは留学先での学修に関して「NTUの学生のレベルが高いのでびっくりした」と述べている。その高い学修レベルに役だったのは「日本で経済のミクロ、マクロ、会計をとってから行った」こと、「統計を英語で習っておいた」ことであった。専門分野で学ぶために必要な基礎知識や英語能力を磨いた上での留学が必要である。実際、Aさんは「積分を習ってから留学すればよかった」という感想も述べている。また、Aさんは、異文化についても、「欧米以外の文化を勉強しておく良かった」との感想を持っている。

X大学のCさん(女性)は、シンガポールのNational University of Singapore (NUS)に留学し、ビジネス学部と人文社会科学分野の科目を履修した。Cさんの留学経験の感想として「NUSの授業内容のレベルがX大学と比較するとかなり高かったので、授業について行くのは楽ではなかった」と述べている。人文社会科学分野の科目も履修したCさんは、「日本とシンガポールの関係、特に、戦時中の日本占領下での歴史とかを学んでから行きたかった。高校でも大学でも学んでいないので、ディスカッションに参加するのが大変だった」と述べている。

韓国の漢陽大学の社会科学部に留学したY大学のEさん(女性)は、政治外交と国際関係の分野で、英語での科目および韓国語での科目を29単位履修し、それに加えて併設の語学学校で韓国語の単位を取得した。Eさんの留学派遣先での経験では「1～2年は教養科目をY大学で履修して、3回生で留学して専門科目を履修し始めたため、留学前と留学中の履修科目のつながりはなかった」が、韓国語で開講された国際関係論や日本政治論の科目を履修し、それらは「面白かった」ということである。Eさんの場合も「国際関係(中東紛争)については学んでいったが、日韓関係については学ばずに行ったので、留学先で真剣に考えた」とのことである。授業の方法については、「プレゼンテーションが主体の授業とかがあったが、Y大学でプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションになれていたため、困らなかった」。また、「韓国語と英語の両方の力を伸ばすことができた」ことがよかったと述べている。

Y大学のFさん(女性)は、台湾の淡江大学に留学し、国際関係、アジアの社会経済、アジアとアメリカ合衆国の比較、台湾関係の科目を履修した(授業は全て英語で行われた)。Fさんの留学先での学修に関して、「他国と比べると比較的単位の取りやすい大学だったと思う」と述べている。授業方法や評価方法に関しては、「エッセーを書いたり、普通のテストだったり、様々だったし、授業で発言をすごく求められることもなく、その点に関してはY大学の方が活発だった」と述べている。Fさんは、「国際関係を勉強してから留学した」ことや、「英語での授業を受けてから留学した」ことが良かった、とする一方で「政治経済の基礎知識をもう少し学んでから留学したほうが良かった」「日本について基本的な知識を身につけてから留学した方が良かった」と述べている。

以上の事例からすると、留学先がアジア圏である場合に、履修科目の授業内容(及び単位取得)が簡単であったとは言えないように思われる。4つの事例では、シンガポールの大学に留学した学生は授業のレベルが高かったと感じており、韓国及び台湾の大学に留学した学生は授業についていくのは(単位を取得するのは)それほど難しくなかった、と感じていると言える。留学先の国のネイティブ言語が英語である場合と、留学先の国のネイティブ言語が英語以外である場合に、違いがあるのかもしれない。

また、教育社会学的には、カリキュラムの問題は、広い意味では、教育内容だけではなく、教育方法及び評価方法の問題を含む。従って、履修科目間のアーティキュレーションを考える際に、教育方法及び評価方法に留意することも重要である。この点において、アジア圏留学経験者の4つの事例の内、3つの大学で学生参加型の教育方法が主要な方法として用いられており、留学経験者が留学前の学修経験において学生参加型で学んでいたことが役に立ったと述べている事は、注目に値する。国際教育のカリキュラムにおいて、学生参加型の授業方法を取り入れていくことの重要性点及び必要性を示唆するものであると考える。

6. 2 ヨーロッパ圏への留学

次に、ヨーロッパ圏に留学した学生の留学経験について見てみよう。

X大学のBさん（男性）は、フランスのNeoma Business School（前Rouen Business School、RBS）に留学し、1学期目は英語での授業とフランス語、2学期目は英語での授業と留学生向けフランス語での授業を履修した。BさんはX大学で統計学や人口学とかを学んだ上で留学したが、Neoma Business Schoolでの履修科目は「基礎をふまえた上での応用が高度であった」と語っている。留学先での教育方法は学生参加型も用いられていたようで、Bさんは「グループワークとか話術でつかむようなプレゼンカの授業を経験してから留学したのはよかった」と語っている。

X大学のDさん（男性）は、リトアニアのVytautas Magnus University（VMU）に留学し、英語で開講されている科目を履修した。授業については、「難しいというか、期待通りの難しさ」であったと語っている。特に、X大学では英語が第二言語の学生が英語で学んでいるので、全体のレベルが上がらない部分があるが、リトアニアでは「英語が普通」で「宿題とかも多かった」とのことである。授業でよかったところは、「理論的学問的なアプローチのベースから入って行くのが、新鮮だった」ことで、植民地主義やポストコロニアルなどの「理論的学問的なアプローチで、ヨーロッパのケーススタディとかで学べて、比較できる対象を学べてよかった」と述べている。「日本ではあまりポストコロニアルとかやらないし、やっても、結局、日本の植民地の話で終わってしまう」傾向にあると感想を述べている。

Y大学のGさん（女性）は、ノルウェイのUniversity of Bergenに留学し、文化人類学、都市人類学、ヨーロッパ史などの英語で開講されている科目、およびノルウェイ語を履修した。Gさんの感想は「授業のレベルは高く、深く学べた」である。教育方法は、「普通の講義スタイルで、講義の後に、ティーチング・アシスタントによるセミナーのようなディスカッション・セッション」があり、「教員のレクチャーだけではなく、文献を自分で読む必要があった」とのことである。評価方法は、「最後の期末テストだけで成績が決まる」というもので、「リーディングの量が多く、8時間のエッセイ・テスト」とかがあるというスタイルであった。どちらかというところ「古典的」な評価方法スタイルであったようである。更に、「1科目がY大学の8単位に換算された」とのことである。単位を落とすとかかなりの痛手となるようだ。Gさんは、「留学前に、Y大学でリーディング・インテンシブのコースがあるとよかった」と述べている。

Y大学のHさん（女性）は、リトアニアのVilnius Universityに留学し、国際関係、東洋研究、イスラム研究、近代化論などの科目を履修した。Hさんも「授業はハードだった」と述べている。また、「学部によって授業レベルが異なり、国際関係政治学部はついていくのが大変だった」とのことである。但し、「ほとんどの授業が少人数クラスだったので、質問とか発言とかしやすかった」とのことである。授業方法は、「リーディング・リストがあり、授業の内容はリーディングを読んできてディスカッションをする」というものであったらしい。評価方法は、「レポートとペーパーテストの両方があり、ペーパー試験は持ち込み不可で3時間でエッセイを5つ書く」というハードなものであったとのことである。留学前の準備でよかったことは「専門の授業をたくさんとって行った」ことで「基礎知識、特に、理論の基礎」を学んでから留学したことであったとのこと。但し、ヨーロ

ッパの歴史は基礎知識にか欠けていたらしく、「ヨーロッパの歴史をもっと勉強してから留学すればよかった」と述べている。

以上4つの事例は留学先がヨーロッパ圏である場合であるが、興味深いことに、学生が4人共に、言葉は少し違うものの、履修科目の授業内容のレベルが高かった（難易度が高かった）と感想を述べている点である。この4つの事例では、フランス、リトアニア、ノルウェー、というように、留学先の国のネイティブ言語（あるいは、公用語）は英語ではないが、一般社会でも英語が通用しているなどの特徴がある。そのような国々で英語が使用言語で開講される履修科目のレベルは高くなる傾向があるのかもしれない。

更に、留学先がヨーロッパ圏である場合の特徴として、教授方法及び評価方法がわりと古典的な「教師中心」であることである。もちろん、グループに分かれてのディスカッションなどの方法を用いている例も一部あるが、文献の「リーディング」（読解）が中心であるようだ。また、評価方法も自分のアイディアを述べるとか、プロジェクトとかを遂行するのではなく、リーディングのサマリーをする、論点を議論するなど、文献の理解に重点がおかれている。更に、最後の試験では、持ち込みなしで8時間（ノルウェー）とか3時間（リトアニア、Vilnius University）かけてエッセーを書くといった、かなりハードな形態での試験が課されるようである。また、最後の試験が評価に占める比重が大きい。このような点は、留学準備教育の中で十分に周知され、練習機会が与えられているわけではないようであるので、今後の国際教育のカリキュラムのアーティキュレーションを検討し構築していく上での課題である²⁵と考える。

6. 3 北米への留学

最後にアメリカ合衆国に留学した学生の声を検討しよう。今回の調査での事例は2つなので、議論の有効性や信頼性は限られているかもしれないが、今後の研究の緒にはなると思われる²⁶。

Y大学のIさん（女性）は、University of Wisconsin-Oshkoshに留学し、社会学、政治学、アメリカ政治、アメリカ史、ジェンダー研究の科目を履修した。Iさんは「授業の内容についていくだけでも大変だった」と述べている。その主な理由は英語力にあったようで、「ネイティブの人のディスカッションになかなかついていけなかった」と述べている。University of Wisconsin-Oshkoshでは学生参加型の授業が行われていたようで、Y大学で「英語でのグループワークとか、プロジェクトとかのスキルを磨いてから留学できたのはよかった」とのことである。

Y大学のJさん（女性）は、University of New Mexicoに留学し、ビジネス関係の科目を履修した。履修した科目の授業は「授業の難易度は高かったが、教員が助けを求めるとよく応えてくれて、努力すればできた」ということである。留学前に学んだことに結びつけながら学修したようである。例えば、「Y大学でもビジネスの授業はとっていたが、留学先で記憶が戻ってきたところがあり、興味がわいた」というように述べている。授業方法は、学生参加型が用いられていたようで、「英語でのグループワークとか経験してから留学してよかった」と語っている。評価方法は結構ハードな科目もあったらしいが、自分で積極的に教員とかのアドバイスを求めたらし

い。Jさんが言うには、「ファイナル・レポート15頁という科目もあったが、毎日担当教官に会ってアドバイスを貰うことができた」とのことである。

Iさん、Jさんの2人が、履修科目の授業の難易度が高かったと感想を述べている。また、ネイティブのディスカッションについていくのが大変だったというのは、非常に正直な感想であろう²⁷。但し、授業方法としては、グループ・ワークやチーム・プロジェクト等の方法も多用されるし、それらが評価に占める割合も大きいので、話すことが苦手でもリーディングをきちんとこなしておくことによって、授業に遜色なくついていくことは可能である。また、通常、教員は個々の学生に対応するのを厭わないことが多いので、Jさんのように、積極的に担当の教員に相談に行くなどして補うことも十分可能である。北米に留学する生徒には、留学前の履修科目でそのような積極性を養わせる機会を設けるなどの対応がなされると良いかもしれない。

7. 結語

本稿では、日本の大学生の海外留学を、学生の国際的・大学間移動の形態の一つとして位置づけ、そこでの履修科目の単位認定（「単位互換」及び「単位転入」）に焦点を当て検討した。海外留学における履修科目の単位認定システムは、留学プロセスに関する「カリキュラム」のようなものが形成されていること、そこでは学生が積極的・自主的に学習計画や履修科目のマッチングリストの作成を行い、その上でアドバイザーが単位承認のプロセスを指導するなど、きめ細かい指導がなされていることを指摘した。また、履修科目の単位認定システムは、アメリカ合衆国の高等教育での実践をモデルにした科目番号制度の導入やシラバスの作成など、単位互換や単位転入に必要なツールを整備した上で機能しているシステムであることを明らかにした。

更に、本稿では、学生の視点から海外留学先での学修経験を語ったインタビュー・データから、授業内容、授業方法、評価方法といった多様な側面から、留学における学修経験を捉える重要性を指摘した。その意味では、履修科目の単位認定に集約されるような学修カリキュラムのアーティキュレーションは、学生の国際的・大学間移動における教育の質保証の必要条件ではあるが、充分条件ではないと言えるかもしれない。日本の大学の質保証において、教育方法や評価方法を加味した学修カリキュラムのアーティキュレーションを模索する必要があるのではないだろうか。

謝辞

本研究の調査に理解と協力をいただいたX大学及びY大学の教職員及び学生の皆様に、謹んで感謝の意を表したい。また、本研究のデータ収集において、大学基準協会の栗林泉副主幹に協力を頂いたことにも、心からお礼申し上げます。

¹ 「高等教育の規模」は普通「就学者数」（あるいは「在籍者数」、enrollment）で測る。「就学者数」には、フル・タイムの学生とパート・タイムの学生の両者を含める。「日本では大学が多すぎる」というポピュラーな言説があるが、国際比較上は必ずしも正しくない。例えば、アメリカ合衆国の現在の総人口は3億人余であるが、高等教育における就学者数は2000万人を超える。即ち、人口の約6%が高等教育機関に就学中である。日本は総人口が1億2900万人弱、就学者数は約380万人であるので、高等教育に通っている者は人口全体の約3%である。つまり、アメリカ合衆国の高等教育は人口比では日本の2倍の規模ということになる（野崎、2013）。また、例えば、大竹文雄（2012）の「大学（生）が多すぎる？」も参照されたい。 <
<http://www.jcer.or.jp/column/otake/index422.html>>。

² この点に関する画期的な論考として鈴木典比古&村中均（2014）がある。

³ 本稿には反映されないが、X大学には2013年12月に準備的な意味での予備調査訪問を行い、大学の概要及び学生の海外留学等に関する説明を受け、職員複数と役員1名から説明を受ける機会を持った。また、2014年秋にZ大学で国際教育推進を担ってきた役員兼教員と予備調査的なインタビューを行った。

⁴ 但し、本稿はいわば「中間レポート」あるいは「試論」のような性格の論考であり、仮説を検証するというよりは、仮説を立てるための探求をするためのものであることを、予め断っておきたい。というのは、一つには、本稿では時間的な制約及び紙幅の都合で先行研究についてはほぼ議論しないからであり、もう一つには、本研究における調査は今後も継続する予定であるからである。

⁵ 本稿では、インタビューに応じてくれた教職員及び学生のプライバシー保護のため、大学名及び個人名は匿名とする。本来は、大学の規模や特色等もエスノグラフィックなデータとしては重要であるが、在籍者数などから大学を特定できる可能性があるため、本稿では明記しない。

⁶ 質的分析の方法についてはNewman（2006）参照。詳しい方法論上の議論についてはまたの機会に譲ることにする。

⁷ UCシステムは、10校からなる大学システム。カリフォルニア州は、3つの公立大学システムを有している。他の2つのシステムは、23キャンパスと8つのセンターを有するカリフォルニア州立大学システム（California State University System、CSUシステム）、及び112校を擁するカリフォルニア・コミュニティーカレッジシステム（California Community College System、CCCシステム）である。この3つのシステムをつなぐカリキュラム上のアーティキュレーションは、本報告書の論文を含め、山田礼子氏の優れた業績が数多くあるので参照されたい。

⁸ 「読み替え表」の作成は、学生に対する詳細なアンケート調査、及び担当教員への多岐にわたる質問調査の結果を踏まえて、UC東京スタディセンターが認定したものを、サンタバーバラにあるUC Education Abroad Programの最終判断を受けて発効するというプロセスを伴っている。必ずしも簡単なプロセスではなく、専門的な知識や見識の問われるものであると言える。筆者のニューヨーク州立大学バッファロー校時代の指導生の中にも、国際教育オフィスで同じような専門的部署で働く学生がいたが、世界の各地から留学・転学してくる生徒の成績表を「読む」ことに関して、非常に広く詳細な知識（と経験）を蓄積していることに驚いた覚えがある。

⁹ ICUでは「読み替え」という言葉で表現されている作業は、基本的には他校で履修した科目の履修単位を自校に移すという作業の範疇に属し、英語圏では一般的には「credit transfer」と呼ぶ。直訳すれば「単位転入」である。「credit transfer」は必ずしも「互換」でなくてもよく、ある程度の規定に基づくケース・バイ・ケースの場合も多い。

¹⁰ 筆者は、アメリカ合衆国での大学教員経験から、このようなきめ細かさはかなり「日本的」なものなのではないかと考える。

¹¹ アメリカ合衆国型のシステムを取り入れることに、筆者は賛成である。主な理由として、一つは、アメリカ合衆国のシステムは基本的に「全ての人々に開かれた高等教育」(higher education for all)を目指したものであること、もう一つは、グローバル化の中でアメリカ合衆国型に世界の高等教育がシフトしていることがあげられる。但し、アメリカ合衆国型へシフトすることは、「誰が高等教育のコストを担うべきか」という高等教育システム運営上の最大の財政問題に関して、社会的な論争とコンセンサスの形成が必要となるだろう。

¹² 都合により、次節5.で紹介する事例はY大学のもののみにしたい。X大学の事例については稿を改めて報告・分析したい。

¹³ 海外留学を卒業要件にするかどうかは、個々の大学で意見の別れるところであろう。また、本研究における調査では、学生からも興味ある指摘があった。それらについての議論は、本稿の主題から少し外れると思われるので、またの機会に譲ることとする。

¹⁴ 本稿で参照するY大学の文書（『2014 学部履修ハンドブック』及び『2014-2015 留学・海外学習案内』）については、タイトルから大学名（及び、大学を特定できるような語彙を省いてある。頁番号はそのまま表記してある。

¹⁵ 更に、大学への「手数料」等（計2万円程度）を支払った上で、学生が休学して1セメスター「海外渡航」することを認めている。この場合の「単位認定はしない」（『ハンドブック』、132 頁）と規定されている。ちなみに、「個別合意に基づく留学」においては、学生はY大学への授業料を支払った上で「留学先学費」（132 頁）を負担するという規定になっている。

¹⁶ Y大学では「通算GPA」と「当該セメスターGPA」がある。「通算GPA」は入学してから現在までのすべての成績をもとに計算したGPAで、成績証明書には通算GPAが記載される。「当該セメスターGPA」とは、そのセメスターで修得した成績のみで計算したGPAで、成績通知書に記載される。交換留学出願時には「当該セメスターGPA」が必要である。派遣先大学には「通算GPA」を提出する。

¹⁷ Y大学では「アジア太平洋言語」として、中国語、韓国語、マレー語、インドネシア語、スペイン語、タイ語、ベトナム語を開講している。

¹⁸ 文書とインタビューを比較検討するのは、質的調査研究方法論的というと「三角測量法（トライアングレーション、triangulation）」という方法の一つである。本稿では、方法論的な議論は割愛することとする。

¹⁹ この点は次の調査で実際のケースの数等を尋ねて見たいと考えている。

²⁰ 同様の問題は、筆者もアメリカの勤務校で経験した。筆者のケースは語学の単位ではなく、統計学の単位に関してであった。なかなか、判断の難しい問題であった。一つには、カリキュラム上の問題があり、もう一つには、学生が基本的には科目ごとに授業料を支払うというアメリカの高等教育システムにおける、財政上の問題があるからである。日本の場合にどのような性格の問題として捉えられているのか、引き続き調査してみたい問題である。

²¹ 学生の声を教育プログラムの評価にどのように活かすかは、難しい問題ではあるが、消費者の声を抜きにした商品の評価はありえないのではないかと筆者は考える。

²² 本研究のための調査で集めた「留学経験学生の声」は様々なテーマやトピックに関わるもので、本稿のテーマよりも幅広い内容に関わるデータとなっており、「学生留学経験と国際教育の質保証」といった論考も可能であるが、本稿では「留学先での履修科目と単位互換」に焦点を絞りながら分析することにする。

²³ 「地域傾向仮説」を語るインタビュー・データについては別稿にて詳しく検討することにした。

²⁴ 「留学派遣先の地域によって学生の持ち帰る履修科目成績に差がある」という指摘は、科目のアーティキュレーションを含めた留学プログラムの運営に貴重な示唆を与えると思われる。但し、留学先での学修における成績の差や履修科目の難易度などは、他にも様々な要因（例えば、男女差、言語能力の差）の影響が考えられるので、より本格的な質的調査だけではなく、量的調査（特に、推計統計学、inferential statistics）を用いた手法によって検証されることが必要であろう。

²⁵ 本研究の事例は 4 例ではあるが、ヨーロッパ型高等教育のかなり普遍的な傾向を反映しているのではないかと考える。言い換えれば、留学経験者の語りは、ヨーロッパ型高等教育における教授方法及び評価方法の伝統的プロトタイプ（原型）に一致していると筆者は見ている。但し、この点についての論考・検証は、またの機会に譲ることとする。

²⁶ 但し、筆者の 20 数年余のアメリカ高等教育の経験を踏まえた解釈なので、分析の正当性はあるのではないかと考える。

²⁷ 私の経験では TOEFL スコアが 600 点以上あっても、アメリカの大学でディスカッションにネイティブ並に参加することは難しい。但し、それをどう感じるかには個人差がある。

<引用文献>

- Neuman, W. Lawrence. (2006). Social Research Methods: Qualitative and Quantitative Approaches. 6th edition. Boston & New York: Pearson.
- 野崎 与志子、(2013)、高等教育と逆ジェンダーギャップ：アメリカ合衆国の事例から、大学評価研究、12 号、141-158 頁。
- 大竹 文雄、(2012)、「大学（生）が多すぎる？」
<http://www.jcer.or.jp/column/otake/index422.html>
- 鈴木 典比古 & 村中 均、(2014)、グローバル教材移動理論：大学教育の質保証と国際化、東京：文真堂。

あ と が き

本研究課題「高等教育におけるアーティキュレーションに関する調査研究」は、グローバル化が進行している現在、「国際化」と「質保証」という2つの側面に対応するために、日本の高等教育はアーティキュレーションと呼ばれる制度を進めていく必要があるという共通認識のもとで、進められてきた。まえがきで本調査研究部会の部会長である鈴木先生が高等教育の国際化の必要条件として、教育を授ける大学側と教育を受ける学生側の2つの動きを提示し、この必要条件を同時に満たすためには、各国大学間においてプログラムやカリキュラムや諸科目において調整や整合性の確保が必要となると述べている。そのための枠組みがアーティキュレーション（articulation）であり、高等教育におけるアーティキュレーションを適切に実現するためには、制度枠組みの構築のみならず一連の教育の質保証が重要になると指摘している。

本調査研究では、様々な角度から各国におけるアーティキュレーションの制度の調査を実施したが、各国の調査に加えて、実際のアーティキュレーションを経験している学生へのインタビューを通じて日本におけるアーティキュレーションの課題を検証し、他の国々からの示唆となる点を明らかにすることも実施した。

本報告書では、相対的にアーティキュレーションの仕組みが構築されているアメリカ、イギリスを対象に、その全体的な仕組みの概要、国や州の資格である教員養成課程におけるアーティキュレーションの現状や可能性、そしてアーティキュレーションを経験した学生という移動の対象者を取り扱っている。例えば、アメリカにおいては、コースナンバリング、共通コア科目の設定等、各州によってさまざまな形態で実施されている。そうした州における多様性を踏まえたうえで、第1章では、州の法律によって公立4年制大学機関と2年制の短期高等教育機関の間で確立しているアーティキュレーション制度および私立大学機関におけるアーティキュレーション制度やそれらを支えるツールについて検証したうえで、アーティキュレーション制度を担保する質保証について考察している。

第2章では、短大と大学とのアーティキュレーションを促進し、円滑化するためにも、資格に直結する教員養成という視点をそのなかに組み込むという問題設定を行い、アメリカの大学で展開されている教員養成課程でのアーティキュレーションを提示している。

第3章は、アーティキュレーションに関して多様な仕組みが州や設置形態によって存在するアメリカとは異なり、国家資格としてのレベル別の試験や資格枠組みが存在している英国のアーティキュレーションの特徴とそこから見えてくる日本への示唆が提示されている。

第4章では、学生の大学間移動の増加を前提に、国際留学に力点をおく日本の大学の事例をベースに、海外留学と履修科目の単位の取り扱いにかかわる問題について考察を行っている。

調査結果からは、現状において各国のアーティキュレーションのあり方は多様であることが判明した。一方で、アーティキュレーション制度は教育の中身、方法、単位、あるいは学位等の質保証と深く結びついている。例えば、カリフォルニア州における公立の2年制と4年制大学間におけるアーティキュレーションは、単位を互換する科目の内容についての細かい取り決め、学修成果の把握等が前提となっているからこそ機能している。英国においても、大学評価を通じて、学生の移動が行われる場合には、海外も含めて提携校における学位（教育）の質保証の妥当性についての確認が行われ、実績に基づいて厳格に学位授与権の審査と認可が行われるなど徹底した質保証が機能している。

実際に第4章の海外留学を経験した学生による海外での教育の内容あるいは質についてのインタビュー調査からは、確かに英語による授業という面があるにせよ、授業内容のレベルの高さについて多くの学生が言及している。こうした声からは、教育の質保証がしっかりとアジア、欧米の大学では実施されていることが見て取れる。

高等教育における学生の流動性を高めるためには、やはり教育の質保証の仕組みを構築すること、また学生の学修成果を比較可能とするような資格枠組みの検討も必要になるかもしれない。その際、日本においては教員養成課程認定が国によって執り行われていることもあり、課程の内容の統一化が可能とも考えられる。つまり、第2章において「国が中心となって教員養成課程にて開設される諸科目の内容の細かな基準を策定できれば、教員免許を取得するために履修する科目は教育職員免許法によって一括して規定されているため、より単位の移行が円滑に行えよう」と言及されているように、資格を軸にした機関間でのアーティキュレーションの運用の可能性もあるかもしれない。

今回の海外調査では、各国のアーティキュレーション制度の仕組みを収集し、これを論理的に整理することを目的の中心に置いた。それゆえ、多様なアーティキュレーション制度の存在から実際に日本において応用可能な具体例を提示することには現状では至っていない。しかし、質保証の枠組みとアーティキュレーション制度とを同時並行して考察する必要性を提示したことが本調査研究の示唆といえよう。

2015年5月

高等教育のあり方研究会

高等教育におけるアーティキュレーションに関する調査研究部会

部会調査研究員 山田 礼子

高等教育のあり方研究会名簿

職 名	氏 名	所 属 機 関
座 長	鈴 木 典 比 古	国 際 教 養 大 学
調 査 研 究 員	生 和 秀 敏	大 学 基 準 協 会
〃	羽 田 貴 史	東 北 大 学
〃	早 田 幸 政	大 阪 大 学
〃	山 田 礼 子	同 志 社 大 学
〃	山 本 眞 一	桜 美 林 大 学

任期：2013（平成25）年8月1日 ～ 2016（平成28）年3月31日

高等教育におけるアーティキュレーションに関する調査研究部会名簿

職 名	氏 名	所 属 機 関
部 会 長	鈴 木 典 比 古	国 際 教 養 大 学
部 会 調 査 研 究 員	小 原 一 仁	玉 川 大 学
〃	川 嶋 太 津 夫	大 阪 大 学
〃	野 崎 与 志 子	早 稲 田 大 学
〃	山 田 礼 子	同 志 社 大 学

任期：2013（平成25）年9月1日 ～ 2015（平成27）年3月31日